令和７年度
「専門職業人材の最新技能アップデートのための
専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」

事業名

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象とした AI 導入スキル獲得のための
研修プログラム開発事業

事業成果報告書

学校法人彩寿学園

目次

1．構成機関・構成員等 1

2．事業の実施体制 3

3．事業の内容.....4

1.事業の趣旨・目的等について 4

2.開発する講座の概要.....5

3.具体的な取組.....5

i. 計画の全体像 5

ii. 今年度の具体的活動 7

iii. 実施した実証講座の概要 16

4．巻末　資料.....72

シラバス 74

教材　PBL③.....86

教材　PBL②改訂版.....98

教材　PBL①改訂版.....110

企画書 完成版　STEP 3 段階.....164

企画書 完成版　STEP1 段階.....178

知識教材 200

知識教材（確認問題） 242

4. 巻末　資料

シラバス

（シラバス）PBL①

科目名	PBL①
科目概要	多国籍介護・福祉現場における課題やニーズを分析し、それに基づいて AI ツール（デジタル機器）の選定および導入に向けた考え方を整理するプロセスを、PBL（Problem-Based Learning）形式で学ぶ。 受講者（職員・スタッフ）が現場で直面する課題を具体化し、解決策や導入目的、実現手順を整理しながら、職場全体での運用を想定した企画案を作成する。本講座でいう多国籍スタッフとは、技能実習・特定技能・留学生等の外国人介護職員を指す。なお、本シラバスにおける「AI ツール（デジタル機器）」とは、翻訳支援、記録支援、見守り支援等を含む ICT 機器全般を指す。
対 象 者	多国籍スタッフが既に就労している、または今後の採用を検討している施設の中堅職員・リーダー、実務者
学習目標	１．現場のニーズや課題を分析し、解決に役立つ AI ツールを適切に選定する力を養う。 ２．AI ツール導入の目的および手順を明確化し、実現可能性を踏まえた計画案を作成するスキルを身に付ける。 ３．AI ツールを活用して業務効率や成果を高めるためのプロセスを検討・整理する力を醸成する。
学習形式	ハイブリッド学習（e ラーニング：非同期型＋集合学習：同期型）
時 間 数	20 時間　※事前学習 2 時間＋集合・演習 18 時間の計 20 時間で構成する。
学習項目	１．事前学習（e ラーニング学習・2 時間） (令和 5 年度テキスト 第 1 章・第 4 章より） ・多国籍共生介護現場の理解と実践（令和 5 年度テキスト第 1 章） 多国籍スタッフが働く介護・福祉現場の現状や背景を理解し、文化・言語・就労制度の違いが現場に与える影響を把握する。あわせて、自施設における多国籍共生の状況や、日常業務で生じやすい課題を整理する。 ・導入事例の分析（令和 5 年度テキスト第 4 章） 多国籍スタッフとの協働において生じやすいトラブルやリスクの具体例を理解する。誤解や行き違いが発生する背景や要因を把握し、現場で留意すべき視点を整理する。 ・理解度確認テスト ２．オリエンテーション／PBL 趣旨説明・集合学習（1 時間） ・本講座の趣旨説明 ・PBL（Problem-Based Learning）の概要と学習目的の説明 ・テーマ説明、目的およびゴールの設定 ・PBL 学習の進め方の説明

	・PBL で取り組むテーマと多国籍協働の重要性 3．自施設・事業所における課題抽出と解決策検討（5 時間） ・福祉業界の現状と多国籍スタッフとの共生課題の理解 ・デジタル機器（AI）の可能性と現状把握 ・自施設・事業所における現場課題の特定と深掘り ・デジタル機器（AI）による解決策の検討 ・解決策の実現可能性評価と期待効果の明確化 4．既存 AI 機器のリサーチ （翻訳・見守り・記録支援など）（5 時間） ・デジタル機器の基本と、活用による福祉現場でのメリット ・福祉現場におけるデジタル機器の種類・役割および導入・成功事例の調査 ・多国籍スタッフによるデジタル機器利用の評価 ・自施設・事業所への貢献分野の具体的検討 ・デジタル機器導入に向けた必要情報の特定 ・多様な活用事例 （見守り／移乗支援／記録支援／コミュニケーション支援／外国人スタッフ支援）の比較検討 5．企画立案：機器選定理由と導入効果の仮説構築（4 時間） ・福祉現場課題の再確認とデジタル機器活用策の整理 ・デジタル機器選定の評価ポイントと多国籍スタッフの意見・視点の反映 ・最適なデジタル機器の選定と選定理由の明確化 ・デジタル機器導入効果予測の仮説構築 ・導入に伴い起こり得る問題とその対策の検討 6．企画書作成：目的・期待効果・導入手順・課題点の整理（3 時間） ・現状課題の深掘りワーク ・グループブレインストーミング ・グループリサーチ ・企画書・計画書ドラフトの作成 ・企画発表 ・全体総括と今後の展望 ・導入に伴うコストや業務負担の整理 ・導入によって期待される効果や影響の整理（業務効率、働きやすさ等）

到達目標	1．AI ツールを活用した課題解決能力の習得：介護・福祉現場の具体的な課題を的確に特定し、AI ツール（デジタル機器）がそれらの課題解決にどのように貢献できるかを分析した上で、課題に応じた最適なツールを選定・提案できるようになる。 2．多国籍スタッフとの協働における AI ツール活用の理解：多国籍スタッフが働く現場に特有の課題を理解し、AI ツールの導入が業務負担の軽減やコミュニケーションの円滑化にどのように寄与するかを整理するとともに、導入に伴う懸念点や留意点、その対策について説明できるようになる。 3．デジタル機器導入に関する企画立案能力の習得：AI ツール導入の意義や目的、期待される効果、具体的な導入手順、潜在的な影響（特に負の影響）とその対策を整理し、実装を前提としない段階において、効果や課題、導入時の留意点を明確にした企画書案を作成し、第三者に説明できるようになる。 4．導入効果に関する仮説構築と評価・改善の考え方の理解：AI ツール導入に伴う効果について仮説を立てる視点や、評価・改善につなげる基本的な考え方を理解し、次段階の検証に向けた視点を身につける。 5．情報収集・分析に基づく論理的思考およびプレゼンテーション能力の向上：国内外の既存 AI ツールに関する情報を効率的に収集・分析し、その結果を基に自施設の課題解決に資する提案を論理的に構築し、他者に分かりやすく説明できるようになる。
評価方法	1．企画書の完成度：課題特定、AI ツール選定の論拠、多国籍スタッフへの配慮、導入計画、評価方法の具体性と説得力。 2．グループ貢献度：議論への積極性、情報収集・分析、チーム協調性。 3．発表能力：内容の明確さ、説得力、質疑応答の的確さ。 4．基礎知識：事前学習（e ラーニング）による主要概念の理解度。

備考	参考書籍： 総務省：「自治体における AI 活用・導入ガイドブック」 https://www.soumu.go.jp/main_content/000820109.pdf 厚生労働省：「外国人介護職員の受入れ・定着のための ICT 機器等の活用事 https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r06_95_03jigyohokokusho.pdf 株式会社 NTT データ経営研究所：「介護現場で活用されるテクノロジー便覧」 https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/r05_105_02jigyohokokusho.pdf 株式会社 NTT データ経営検収書：「介護現場におけるテクノロジーの実態調査研究事業 報告書」 https://www.nttdata-strategy.com/services/lifevalue/docs/r03_add16jigyohokokusho.pdf

（シラバス）PBL②

科目名	PBL②
科目概要	PBL①で作成したAIツール導入計画を題材に、発表および講師・受講者間のフィードバックを行う。複数施設のマネージャーが一堂に会し、自施設で作成した企画書を持ち寄ってプレゼンテーションを行い、他施設の成果物や視点に触れながら意見交換を行うことで、グループ学習および相互フィードバックを通じて導入計画の課題や改善点を整理し、計画の実現可能性を高めることを目的とする。
対 象 者	多国籍スタッフが既に就労している、または今後の採用を検討している施設の代表者（リーダー、管理職、経営者）
学習目標	1．自身の施設が作成した導入計画を他者に分かりやすく説明するプレゼンテーション能力を向上させる。 2．他の受講者の意見を取り入れ、導入計画の改善に活かす力を養う。 3．グループディスカッションを通じて、異なる視点から課題を捉える能力を強化する。
学習形式	ハイブリッド学習（eラーニング：非同期型＋集合学習：同期型）
時 間 数	20時間　※事前学習4時間＋集合・演習16時間の計20時間で構成する。
学習項目	1．事前学習（eラーニング学習・4時間） （令和7年度テキスト 第3章～第5章より） ・ＡＩ運用の安全性と効率化（令和7年度テキスト第3章） ＡＩ・デジタル機器導入後に生じる業務フローや現場環境の変化を踏まえ、安全に運用するための考え方や、効率化を阻害しやすい要因について理解する。PBL①で作成した導入計画を見直す際の判断軸として、業務負担、運用体制、現場での調整に関する留意点を整理する。 ・トラブル対応とリスク管理（令和7年度テキスト第4章） 情報・記録、翻訳・要約、判断支援等に関して想定されるトラブルやリスクを理解する。トラブル発生時の初動対応や再発防止の考え方を把握し、他施設の導入計画を検討する際の視点として、リスクへの配慮や想定漏れがないかを整理する。 ・施設に応じたＡＩ導入モデル（令和7年度テキスト第5章） 施設の規模や体制、多国籍スタッフの状況に応じたＡＩ導入モデルを理解する。小さく試す導入、効果確認、振り返りを前提とした運用の考え方を整理し、PBL②における相互フィードバックや意見交換の共通資料として活用する。 ・理解度確認テスト 2．オリエンテーション（1時間）

	・オリエンテーションおよび本プログラムの目的・全体構成の説明 ・増加する多国籍共生スタッフの現状と課題、その背景にある社会的変化 ・福祉現場におけるデジタル機器の基礎および活用事例 3．PBL①で作成した導入計画の共有と相互検討（6 時間） （グループディスカッション） ・PBL①で作成した導入計画の前提条件・目的・内容の共有 ・多国籍スタッフとの共生および連携に関する観点からの整理 ・言語・文化の壁に対するデジタル機器活用の考え方についての意見交換 ・グループディスカッションによる相互フィードバックおよび講師講評 4．デジタル機器の導入計画発表とフィードバック（6 時間） （グループディスカッション） ・他施設の事例や視点を踏まえた導入計画の再検討 ・相互フィードバックを踏まえた課題・改善点の整理 ・改善案の検討および発表、評価 5．改善後の導入計画を再発表し、講師・他の受講者から最終フィードバックを受ける。(1 時間) ・改善後の導入計画の再発表 ・講師および他の受講者からの質問・最終フィードバック
到達目標	1．プレゼンテーション能力の向上 自身の AI 導入計画を論理的かつ分かりやすく説明し、視覚資料（図やイラスト、画像等）を活用しながら表現力を駆使し説得力のある発表ができる。 2．フィードバックの受容と分析 他受講者からの意見や指摘を適切に受け入れ、計画の課題や改善点を的確に分析し、効果的な修正ができる。 3．グループディスカッションの活用 （他受講者からの）異なる視点や意見を尊重しながら全員が発言し建設的な議論を行い、チームで協力しながら計画の作成といった共通の目的を有し、最適な解決策を見出すことができる。 4．AI 導入計画の改善 現行の計画における課題や問題点を特定し、実行可能性や効果を高めるための具体的な改善策を考え、より現実的な計画に仕上げることができる。
評価方法	1．プレゼンテーション能力：発表の明確さ、論理的構成、説得力（具体性や発表者の熱量など）が評価対象。 2．フィードバック活用スキル：受け取ったフィードバックを適切に分析し、計画の改善につなげる力と継続的に検証力、適応力を有するか評価。

	3．グループディスカッション能力：他者と協力しながら、建設的な意見交換ができるか。聞く力、発言が明確か、協調性があるか、目的意識が明瞭であるか評価。 4．計画の改善度：計画がより現実的・実践的になっているかどうか。具体的な目標と成果を設定し、それに基づいて策定した評価指標に対して、フィードバック内容をもとに改善効果が分析できているか評価。
備考	参考書籍： 厚生労働省：「取り組み事例集」 厚生労働省：「介護ロボット導入活用事例集」 厚生労働省：「介護現場の生産性向上関連情報」 『これだけは知っておきたい「プレゼンテーション」の基本と常識』（著：アイング株式会社） Adobe：伝わりやすいプレゼン資料の作り方と構成・デザインのコツ https://www.adobe.com/jp/acrobat/roc/blog/how-to-create-presentation-notes.html

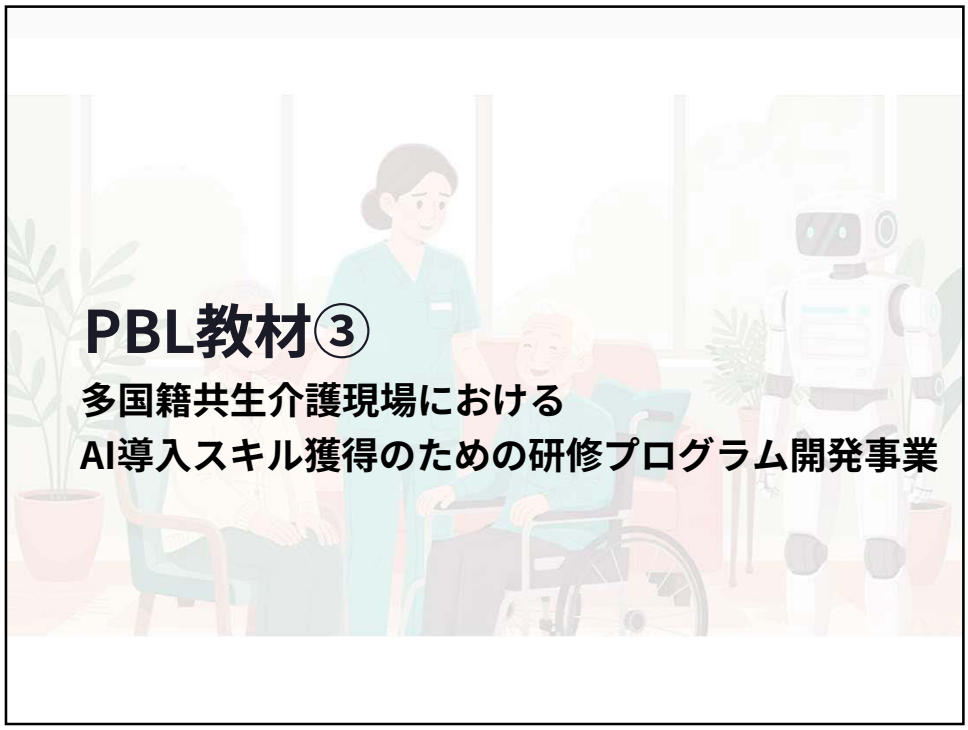
（シラバス）PBL③

科目名	PBL③
科目概要	受講者が PBL②で得た知見を自施設に持ち帰り、自施設の状況に応じて AI ツール導入計画をさらに改訂・具体化する。必要に応じて導入や試行を行い、その効果や課題を評価・整理し、今後の実装に向けた改善につなげることを目指す。また、その結果を他の受講者と共有することで、新たな視点を得ることを目指す。理論と実践を往還しながら、現場に即した AI 活用の判断力と実践力を高める。本 PBL③は、令和 7 年度における実証講座の中核として位置づける。
対 象 者	多国籍スタッフが既に就労している、または今後の採用を検討している施設の中堅職員・リーダー、実務者
学習目標	1.職場のニーズや課題を正確に把握し、それに基づいて AI ツール導入計画を効果的に改訂するスキルを習得する。 2. AI ツールを実際に導入・活用し、その効果を適切に測定・評価する実践力を身につける。 3. 検証結果を基に課題を特定し、導入プロセスやツール活用の改善策を提案する能力を高める。
学習形式	ハイブリッド学習（e ラーニング：非同期型＋集合学習：同期型）
時 間 数	10 時間　※事前学習 2 時間＋集合・演習 8 時間の計 10 時間で構成する。
学習項目	1．事前学習（e ラーニング学習・2 時間） (令和 6 年度テキスト 第 2 章～第 4 章より) ・AI 技術と多国籍共生介護環境への適応（令和 6 年度テキスト第 2 章） 介護・福祉現場における AI・デジタル機器の具体的な活用事例を理解し、導入後の業務の変化や、多国籍スタッフとの協働における実際の活用場面を把握する。 あわせて、自施設で応用可能な活用の方向性を整理する。 ・多国籍共生介護環境におけるリスク管理（令和 6 年度テキスト第 3 章） 多国籍共生介護環境において想定されるリスクや課題を把握し、AI・デジタル機器導入時および運用時に留意すべき管理の視点を整理する。 職員の業務負担、運用ルール、現場定着に向けた工夫の視点を把握する。 ・多国籍共生介護を支援する AI とコミュニケーション戦略（令和 6 年度テキスト第 4 章） 多国籍スタッフとの円滑なコミュニケーションを支援する AI 活用の考え方を理解し、PBL②での相互フィードバックに活かす視点を整理する。 PBL②で得たフィードバックを踏まえ、導入計画を見直す際の視点を整理する。

	・理解度確認テスト 2．オリエンテーションと現状分析・導入計画策定（1 時間） ・オリエンテーションと PBL③学習の進め方の説明 ・現状分析と課題共有（手間のかかる点やボトルネックの特定） ・導入計画の検討と情報収集（複数機器の情報収集と比較検討） ・まとめと質疑応答 3．自施設におけるデジタル機器活用の共有と効果検証（4 時間） ・自施設におけるデジタル機器活用状況の共有 PBL①・②で検討した導入計画を踏まえ、自施設での活用状況や試行結果を整理し、関係職員と共有する。 ・現場ニーズを踏まえた活用方法の検討 実際の業務や多国籍スタッフとの関わりの中で生じた課題をもとに、デジタル機器の活用方法や運用上の工夫についてディスカッションを行う。 ・導入効果の確認と評価 業務効率、業務負担、コミュニケーションの変化等の観点から、デジタル機器導入による効果や課題を整理・評価する。 ・まとめと質疑応答 4．職場を変えるデジタル機器導入計画の改訂と実践に向けて（3 時間） ・PBL③の導入と趣旨説明 ・デジタル機器の基礎概念 ・デジタル機器導入計画の改訂作業 ・実践シミュレーション ・振り返りとまとめ
到達目標	1．現場の課題に応じた計画策定力：職場の現状やニーズを的確に分析し、それに基づいてデジタル機器導入計画を改訂・策定するスキルを習得する。 2．効果的な活用と評価手法：デジタル機器の実用的な活用方法を学び、その効果を適切に測定・評価する方法を身につけ、応用力を高める。 3．チームによる計画改善力の醸成：他受講者との建設的な議論やフィードバックを基に、計画の課題を洗い出し、より効果的かつ実行可能な導入計画を完成させる能力を養う。
評価方法	1．実施計画の達成度評価 導入計画の実行状況を基に、各段階での目標達成度を確認し、職場のニーズに適応した内容になっているかを評価する。 2．デジタル機器の効果分析 導入した機器が業務効率や成果に与えた影響を測定し、その活用がどれだけ効果的だったかを数値や具体例を通じて分析する。

	３．グループ共同作業の成果評価 グループワークやフィードバックを通じて、グループとしてどの程度建設的な議論が行われ、計画の改善に活用されたかを評価する。
備考	参考書籍： 厚生労働省：「介護ロボット等による生産性向上の取組に関する効果測定事業報告書」 https://www.mhlw.go.jp/content/12300000/001491508.pdf 公益社団法人かながわ福祉サービス振興会：「介護・生活支援ロボット・ICT推進事業」https://carerobot.kanafuku.jp/ 厚生労働省：「介護テクノロジー利用の重点分野」について https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000209634_00013.html

教材　PBL③



＜次 第＞

【１】 STEP2 講座振返り ＜発表時の質問・回答の整理＞

【２】 ブラッシュアップ ＜多国籍共生介護現場を見据えたモデル＞

【３】 選定機器の再検討　＜自施設環境に応じた再検証＞

【４】 企画書の最終調整　＜企画書内容の最終調整と反映＞



「STEP2 講座」を振り返りましょう。

＜発表時の質問・回答の整理＞

【１】STEP2での発表時には、質疑応答が行われていたと思います。

・改めて発表内容を見直しましょう。

・次に質疑応答の内容から企画書に反映すべき事項について、質問の左側のチェックボックスに ☑ を付けましょう。

※この作業は本スライドではなく、別紙で行うこと。

例）

☑ 質問1.導入する介護機器の運用コストはいくらになる？
回答：1つの介護ロボットに毎月1万円程度（レンタル料）

☑ 質問2.費用対効果はどのように考えているか
回答：100万円と高額だが、助成金を使えば25万円で済む

☐ 質問3.～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～
回答：～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

＜発表時の質問・回答の整理＞

【1-①】STEP2で作成した発表内容を改めて見直し、目的・課題設定・提案内容が一貫しているかを確認しましょう。

・どのような課題を設定していたか

・どの機器を、なぜ選定したか

・期待していた効果は何か

※当時の資料を参照しながら整理すること。

【回答】

＜発表時の質問・回答の整理＞

【1-②】発表時に受けた質問の中から、特に重要だと考えられるものを抽出し、優先度を付けて整理しましょう。

・現場運用に関する質問

・費用や導入負担に関する質問

・効果や実現性に関する質問

【回答】

＜発表時の質問・回答の整理＞

【1-③】質疑応答や助言の内容から、企画書の修正や改善につながる指摘事項を整理しましょう。

※企画書に影響する内容を中心に記載すること。

【回答】

＜発表時の質問・回答の整理＞

【1-④】STEP2で得た意見や気づきの中で、自施設に特に関係する内容を整理しましょう。

・自施設の課題に活かせる点

・導入時に注意すべき点

・追加で検討が必要な点

【回答】

＜多国籍共生の介護現場の想定＞

【2】今後、多国籍共生の介護現場が進むことを踏まえ、企画書に提案した機器が外国人職員にどのように役立つかを記載してください。

※現在、外国人職員がいない場合でも、配置されている想定で記載する。

【回答】

＜多国籍共生の介護現場の想定＞

【2-①】多国籍の職員が働く介護現場を想定し、業務上発生しやすい課題を整理しましょう。

・言語面の課題

・情報共有の課題

・指示伝達や記録の課題。

【回答】

＜多国籍共生の介護現場の想定＞

【2-②】想定される外国人職員の業務場面を整理し、AIツールがどのように役立つかを具体的に記載してください。

・想定される業務場面を整理する

・支援が必要な場面を明確にする

・AIの活用場面を業務ごとに整理する

【回答】

＜多国籍共生の介護現場の想定＞

【2-③】多職種・多国籍環境における円滑なコミュニケーションのために必要な機能や支援内容を整理しましょう。

・言語・情報共有の課題を整理する

・必要な支援機能を検討する

・現場での活用方法を整理する

【回答】

＜多国籍共生の介護現場の想定＞

【2-④】多国籍共生介護現場を前提とした場合、現在のモデルに修正すべき点や追加すべき要素を整理してください。

・外国人職員の配置を想定した業務体制の見直しを行う

・現行モデルで不足している支援内容や機能を確認する

・現場での実行可能性を踏まえて修正点・追加要素を整理する

【回答】

＜選定した機器の確認＞

【3】企画書に記載している機器が適切であるかを【補足資料】を確認して改めて検討し、他により適した機器がないかについて、グループで意見交換を行いましょう。

※選定した機器以外についても調査を行い、性能や機能を比較すること。

【回答】

【補足資料】＜介護テクノロジーについて＞

「介護ロボット」は「介護テクノロジー」へと名称が変更されています。
企画書に提案する機器がどの分野に該当するかを確認し、該当箇所に「○」を付けましょう。

	分野	主な項目（抜粋）
	移乗支援	パワーアシストスーツ、非装着型の移乗補助機器
	移動支援	屋外・屋内の歩行支援機器、装着型歩行アシスト
	排泄支援	排泄予知デバイス、自動排泄処理装置
	見守り・コミュニケーション	施設用・在宅用見守りセンサー、対話ロボット
	入浴支援	入浴動作を補助するロボット・システム
	介護業務支援	介護記録システム（ICT化）、AIによるケアプラン作成
	機能訓練支援（新設）	リハビリ動作の計測・自動解析システム
	食事・栄養管理支援（新設）	誤嚥検知センサー、栄養状態のモニタリング
	認知症生活・ケア支援（新設）	認知症の方の生活リズム維持や安全確保支援

【補足資料】＜介護テクノロジーについて＞

（参考）介護テクノロジー利用の重点分野の全体図と普及率



※赤破線で囲っている、排泄支援（排泄予測・検知）、見守り（施設）、見守り（在宅）、コミュニケーション、介護業務支援、機能訓練支援、食事・栄養管理支援、認知症生活支援・認知症ケア支援の項目においては他の機器・システムとの連携を定義文において明記
※項目別の普及率は、「令和３年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査結果」を引用
※緑枠線の、新たに追加される機能訓練支援、食事・栄養管理支援・認知症生活支援・認知症ケア支援の３項目に関しては、上記調査を実施していないため、普及率は未記載

＜企画書に反映するための準備＞

【４】【１】～【３】で整理した内容を企画書に反映するため、
修正が必要な箇所を具体的に箇条書きで記載してください。

【回答】

＜企画書に反映するための準備＞

【4-①】企画書に反映すべき内容を重要度の高い順に整理してください。

・検討結果の中から反映すべき事項を抽出する
・重要度や影響度の高い内容から整理する
・修正の必要性が高い項目を優先して記載する

【回答】

＜企画書に反映するための準備＞

【4-②】AIツール導入によって期待される効果を、業務・職員・利用者の観点から整理しましょう。

・業務効率化や負担軽減の観点で整理する

・職員の働きやすさへの影響を整理する

・利用者サービスの向上につながる効果を検討する

【回答】

＜企画書に反映するための準備＞

【4-③】講座や検討を通して得られた知見や成果を、企画書に反映する内容として整理してください。

・講座で得られた気づきや学びを整理する

・検討・試行の結果として明らかになった点をまとめる

・企画書に反映すべき具体的内容を抽出する

【回答】

＜企画書に反映するための準備＞

【4-④】今後の導入・実装に向けて、改善すべき点や継続的に検討する事項を整理しましょう。

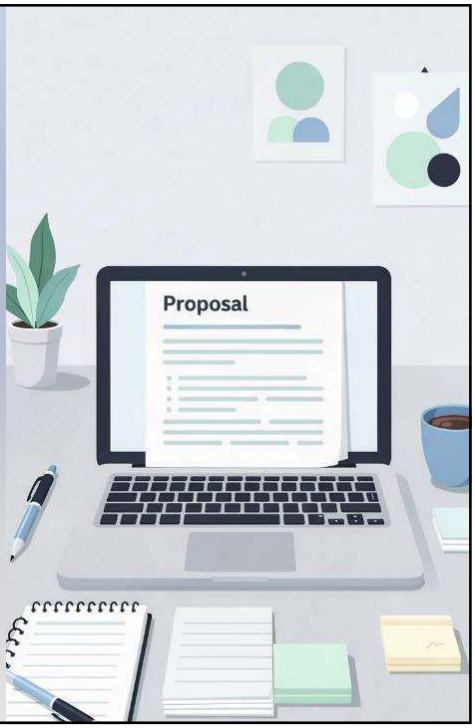
・現時点での課題や改善点を整理する

・段階的な導入や運用改善の方向性を検討する

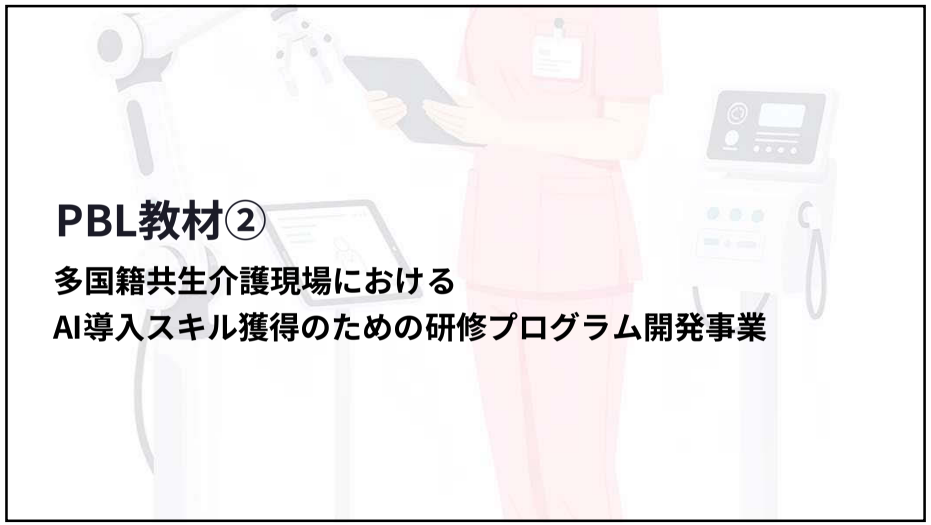
・継続的な見直しが必要な事項を明確にする

【回答】

企画書に反映させましょう。



教材　PBL②**改訂版**



PBL教材②

多国籍共生介護現場における
AI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

次第

本日のプログラムは以下の通りです。

1. 自己紹介・所属法人（施設概要紹介）
2. 企画書 説明
3. 気づき・振り返り
4. 各企画書の議論
5. 講評

【1】自己紹介・所属法人について（紹介）

【1】自己紹介・所属法人について（概要等の紹介①）

施設名（例: ○○施設）

担当者氏名及び役職（例: 山田 太郎）

施設の設立年（例: 1995年3月）

施設の理念・方針（例: 地域に根差した介護サービスの提供）

主なサービス内容（例: デイサービス、訪問介護、リハビリ支援など）

施設の特徴（例: 家庭的な雰囲気、最新の介護設備導入など）

取り巻く環境（例: 高齢化地域での介護需要増加、スタッフ不足などの課題など）

今後の目標・課題（例: AIやICT技術の導入、地域連携の強化など）

記入シート

項目	記入内容
施設名	例: ○○施設
担当者氏名	例: 山田太郎
施設の設立年	例: 1995年
施設の理念・方針	例: 地域に根差した介護サービスの提供
主なサービス内容	例: デイサービス、訪問介護、リハビリ支援
施設の特徴	例: 家庭的な雰囲気、最新の介護設備導入など
取り巻く環境	例: 高齢化地域での介護需要増加、スタッフ不足などの課題
今後の目標・課題	例: AIやICT技術の導入、地域連携の強化

【1】自己紹介・所属法人について（自施設と比較して）

気づいたポイント（例: 施設の規模による課題の違いがある）

他施設との共通点（例: 人材不足の悩みは共通している）

参考になった点（例: AI導入による業務効率化の事例が有益だった）

改善できる点（例: 費用対効果を明確に示すと説得力が増す）

今後のアクション（例: 施設内で技術導入に関するワークショップを実施する）

【2】企画書説明

法人・施設における課題とその要因について

【2】法人・施設における課題とその要因について

課題について、グループワークを通じて、以下について進める。

プロセス	内容
課題の抽出	現在起きている現象（特に良くない）および将来にわたり起こりうるもの。日々提供しているサービスやスタッフのマネジメントにおける課題など、具体的な内容を列挙する。
要因分析	何が原因で課題が発生しているのか、要因について分析を行い、現 状と理想（あるべき姿）のギャップを分析する。
課題解決策の検討	考えられる解決策を具体的に列挙し、優先順位をつける。
課題解決策の実行	優先順位が高いものから実行し、効果検証をして効果があれば継続、なければ他の解決策を模索する。（IT先端機器の活用で解決の一助となるか）

（1）課題抽出

- ①福祉現場における課題を直視する
- ②課題解決の為の作業や手法について検討する
- ③その目的と背景についても理解する
- ④設定された状況から課題を抽出する

（2）課題解決シート作成

- ①課題解決の為のツールとしてIT先端機器の導入や活用を検討する
- ②検討している先端機器の導入状況及び活用事例について調査する



【２】法人・施設における課題とその要因について

（１）課題の共有・選択

課題（1）

課題（2）

課題（3）



【２】法人・施設における課題とその要因について

（２）課題の解決案（IT先端機器活用）

課題（1）

解決案（1）

【２】法人・施設における課題とその要因について

（２）課題の解決案（IT先端機器活用）

課題（2）

解決案（2）

【２】法人・施設における課題とその要因について

（２）課題の解決案（IT先端機器活用）

課題（3）

解決案（3）

【3】気づき・振り返りについて



気づき記録シート

項目	記入内容
気づいたポイント	例: 施設の規模による課題の違いがある
他施設との共通点	例: 人材不足の悩みは共通している
参考になった点	例: AI導入による業務効率化の事例が有益だった
改善できる点	例: 費用対効果を明確に示すと説得力が増す
今後のアクション	例: 施設内で技術導入に関するワークショップを実施する

【3】気づき・振り返りについて

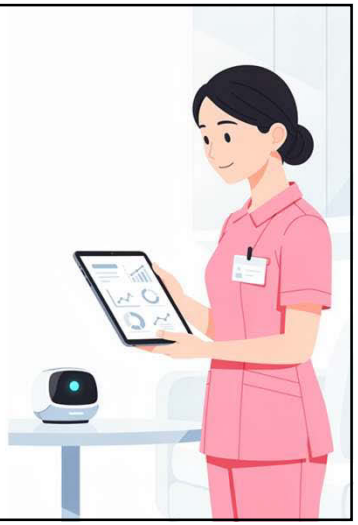
気づいた点（総評など）	振り返りについて（補足など）
【1】	
【2】	
【3】	
【4】	
【5】	
【6】	

相互評価シート

	STEP2	5	4	3	2	1
1	実現可能性					
2	独創性					
3	施設のニーズ適合性					
4	コストと効果					
5	プレゼンテーション					
6	改善の余地					
7	総合評価					

【４】企画書についての議論

課題解決の為のAI機器のと活用事例



【４】課題解決の為のAI機器のと活用事例①

【事例】（介護老人福祉施設の場合）

- 床マットセンサーや背面センサーで見守りを行っていたが、同時に通知があった際に対応の優先順位をつけることが難しい。
- 赤外線カメラによる見守りを試みたが、カメラの設定が難しく、うまく活用できていない。
- カメラセンサーの導入は、プライバシーへの配慮の面でハードルが高い。

【目標】（同上）

- 1時間に1回行っている夜間巡視を、2時間に1回の頻度に減らしたい。
- 取得したデータを活用し、ケアの見直しや健康管理に役立てたい。
- AI機器を導入しているユニットの職員が、導入していないユニットのヘルプに回れる体制を整えたい

【法人・施設の方針】

- 設定が比較的簡単で、
- プライバシーに配慮した見守りが出来て、
- カメラやバイタルセンサ等、必要に応じて連携が図れる（使わなくても精度の高い見守りができる） 機器が望ましい・・・

【導入理由とその目的】（空欄・記入欄）

【４】課題解決の為のAI機器のと活用事例②

【事例】（特別養護老人ホームの場合）

- 歩くことが出来ていた利用者が、コロナ罹患後、ADLレベルが下がり、オムツ介助が必要となった。
- スタッフの高齢化に伴い、利用者を車椅子からトイレ・ベット間の移乗、入浴時に車椅子とシャワーチェアー間の移乗介助することが難しい。
- リフト移動の際は、2名が付き添いをしなくてはいけない為、負担が大きい。

【目標】（同上）

- ADLの向上に努めたい。
- 自力で排泄が出来るようになり、オムツの量を減らしたい。
- 利用者の移乗介助は1人で対応出来るようにしたい。

【法人・施設の方針】

- スタッフの負担軽減（心理的・肉体的）を図り、
- 利用者の立位機能回復等のリハビリに役立ち、
- 夜勤スタッフの見守り等の負担軽減に役立つ

機器が望ましい・・・【導入理由とその目的】（空欄・記入欄）

【出典】介護ロボットポータルサイト

【４】企画書の作成について①

企画書（案）に必要な５つの要素

1. ①現状分析
2. ②企画の目的と全体像
3. ③企画する具体的内容（Who/How)
4. ④企画を実行するスケジュール
5. ⑤収支計画

- 企画アイディアを実際に裏付ける為に行うもので、現状の問題点と市場の動向といった外部環境、社会リソースといった内部環境などの因果関係を整理、説明する
- 現状分析によって判明した問題点の中から、課題を抽出し、その課題をどう解決するのか、目指す方向を示し、企画の目的とゴールを明らかにすることで実施すべきかを検討する
- 企画の目的を踏まえて、どのようなターゲットに何を使って、どういう方法を用いるのか明確化する
- 導入に向けて、実施すべきことを明確にし、スケジューリングする必要がある
- 導入費用、ランニングコスト、またそれがどのように回収できるかを明確化する

【４】企画書の作成について②

企画書テンプレート（記入欄形式）

日付：
宛名：
作成者：
件名（タイトル）

企画の目的

企画の内容

スケジュール・予算
＜スケジュール＞

＜予算＞

添付資料

グラフの使い方ガイド

- 大小を「比較」したいとき ▶▶ 棒グラフ
- 「変化」を強調したいとき ▶▶ 折れ線グラフ
- データ名が長いとき ▶▶ 横棒グラフ
- 「内訳」を表したい ▶▶ 円グラフ



【４】企画書の作成について③

○○企画書（テンプレートA）

概要と目的＜企画の全体像と目的を簡潔に説明します。なぜこの企画を行うのか、何を達成したいのかを明確にします。＞

背景と課題企画の背景情報や解決すべき問題を説明します。なぜこの企画が必要なのかを示す部分です。

アプローチと内容具体的な内容や実施方法を説明します。どのように課題を解決するのか、具体的なステップや手法を記載します。

スケジュールと予算企画のタイムラインと必要な予算について記載します。主要なステップとその予定日程、および予算の概要を示します。

期待される効果とリスク企画が成功した場合に期待される効果や利益、そして考えられるリスクとその対策を説明します。

○○○○の企画書〔企画提案書〕（テンプレートB）

作成日 令和　年　月　日

作成者

（１）現状・問題点・課題（空欄）

（２）提案（空欄）

（３）具体的な提案内容・企画内容〔改善策〕（空欄）

（４）見込まれる効果〔具体的な到達目標〕（空欄）

【４】企画書の作成について④

企画書記載例（テーブル形式）

ターゲット	20代前半の女性。特に肌に悩みをもっている人
コンセプト	商品（石鹸）を実際使ってもらい、自分の肌がみずみずしく、もちもちになるのを体験していただく
目的	商品の認知を増やし、効果を実感してもらう。さらに商品購入につなげたい
目標	リピーター5人増。月間売上数10%アップ

イベント概要（記載例）

- モチモチ肌になる石鹸体験
- 日程

20XX/12/10

- 人数

10名程度

- 入場料

0円

- 講師

XX株式会社 Aさん

- タイムテーブル

10:00〜 準備
12:00〜 開始
16:00〜 終了
18:00〜 撤収

【４】企画書の作成について⑤

商品企画書（テンプレート）

令和○年○○月○○日
出展区画：
　店舗名：○○○○○○○○
　住所：〒○○○ー○○○○　○○○○○○○○　○ー○ー○　○○○○ビル○○階
ターゲット：中小企業の経営者・決済者
提供商品概要：
　基本サービス（無料）：予想売上品　構成比　提供内容
　有料プラン：○○○円〜　○○%
　オプション：○○○円〜　○○%
営業時間：○○時〜○○時（ただしWEBで24時間問い合わせ受付）
定休日：○曜日
従業員計画数：社員　○○名／アルバイト　○○名
サービスの特徴：
- 基本は無料で○○○○のサービスが利用できる
- 高い効果を求める場合は月額○○○円で有料プランを利用することともできる。
- オプションサービスを利用する際は課金されるが○○○○○○を利用できることによる優位性を持たせられる。
- ○○○○○○システムを導入することにより、細かなサービスを提供することができる

将来展開計画（サービス・商品の方向性などを記載する）：
「早く・安く・決める」ことができるサービスとして○○○○業界のリーディングカンパニーを目指します。
また、○○○○○○は無料として打ち出しているが、将来的には規模を拡大させ、有料化に持ち上げる運び。

新商品企画書（テンプレート）

提出日：　　担当者：
1. 企画の背景・理由
コンセプト（空欄）
企画の背景/現状分析（空欄）
企画の目的（空欄）
2. 商品詳細
商品名（空欄）
価格（空欄）
ターゲット（空欄）
発売予定日（空欄）
3. 実行方法
実行者：開発：　販売：
販売戦略：宣伝方法：　宣伝費用：　スケジュール：
費用：開発コスト：　目標販売数：　目標販売額：
特記事項（空欄）
添付資料（空欄）

【４】企画書の作成について⑥

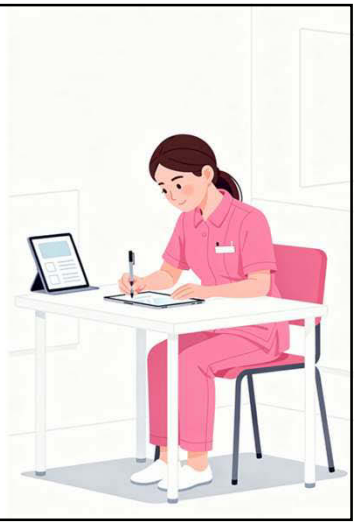
企画・提案書（テンプレートA）

所属：
作成者：
作成日：　年　月　日
顧客名称：　　様
プロジェクト名：
企画の概要・コンセプト（空欄）
現状（空欄）
課題問題点（空欄）
目的（空欄）
具体的解決策のご提案：
提案1（空欄）
提案2（空欄）
提案3（空欄）
導入スケジュール：
提案1（空欄）
提案2（空欄）
提案3（空欄）
費用：
※費用詳細は別紙のとおり
今回の到達目標（空欄）

企画書タイトル（テンプレートB）

○○部 山田 太郎様　　提出日：
企画書タイトル　　作成者：
現状分析・課題点　　○○の必要性
（空欄）

○○○○（スローガン）（空欄）
内容（空欄）　　スケジュール（空欄）



【４】企画書の作成について　記載例①

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】現状の課題と要因（①課題　②要因）	現状の課題と要因から、対応策として、デジタル機器の活用を検討する
【2】企画の概要（写真画像やパンフレット）	デジタル機器の導入及び活用により、○○を目標とする。（具体的な数値や事柄を入れる）
【3】企画の詳細（見積書など付ける）（①内容　②実施時期　③予算）	①商品名②いつ購入？③価格は？
【4】期待できる効果（機器を使うことでどの業務がどれくらい軽減できるか）	機器の導入及び活用がもたらす効果（特に他施設の事例などを盛り込む）
【5】補足（特に機器の耐久年数）	費用対効果を図れるようにする（１年あたり○○万円ほど）
【6】その他（誰が担当、誰に使用する？）	自治体が支援する補助金等で導入するケースが見受けられるが、活用に至らないケースもあり、左記にある誰が、誰に、どの場面で使用するといった点をあらかじめ想定しておく必要がある。

【４】企画書の作成について　記載シート

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】現状の課題と要因（①課題　②要因）	
【2】企画の概要（写真画像やパンフレット）	
【3】企画の詳細（見積書など付ける）（①内容　②実施時期　③予算）	
【4】期待できる効果（機器を使うことでどの業務がどれくらい軽減できるか）	
【5】補足（特に機器の耐久年数）	
【6】その他（誰が担当、誰に使用する？）	

講義資料①　生成AI

多国籍共生介護現場の業務で

生成ＡＩにできることは何？

講義資料①－１　生成AI

① 記録・書類づくりを楽にする



できること

- 介護記録の文章を正しい日本語で整える
- メモ書きから、きちんとした記録文を作る
- 長い記録を短く要点整理する
- 「です・ます調」に統一する
- 翻訳し簡単に文章を整える

講義資料①－２　生成AI

② 申し送り・情報共有を助ける

できること

- 申し送り内容を簡潔にまとめる
- 夜勤・日勤の引き継ぎ文を作る
- 重要ポイントだけを抜き出す
- やさしい日本語で外国人介護福祉士の申し送りを助ける

講義資料①－３　生成AI

③ マニュアル・教育に使える

できること

- 介護手順をやさしい言葉で説明
- 新人向けQ&Aを作る
- 外国人職員向けに簡単な日本語に直す
- 研修資料のたたき台を作る

講義資料①－４　生成AI

④ 利用者・家族への説明を助ける

できること

- 専門用語を使わない説明文章を作る
- 家族向けのお知らせ文を書く
- クレームになりにくい言い回しに整える

講義資料①－５　生成AI

⑤ シフト・業務整理の補助

できること

- シフト作成の考え方を整理
- 業務の抜け・重なりをチェック
- 忙しい時間帯の改善案を出す

講義資料①－６　生成AI

⑥ プログラミングを使った効率化

できること

- Excel作業を自動化する方法を考える
- 「こういうことをしたい」と言葉で説明すると、必要なプログラム案を出してくれる
- プログラムの意味を日本語で説明してくれる

講義資料②　介護テクノロジー

1. 介護テクノロジー利用の「重点分野」（9分野16項目）

2025年4月より、従来の「介護ロボット」という枠組みが「介護テクノロジー」に名称変更され、ICTやAI技術を含む以下の分野が重点的に支援されています。

分野	主な項目
移乗支援	パワーアシストスーツ、非装着型の移乗補助機器
移動支援	屋外・屋内での歩行支援・装着型歩行アシスト
排泄支援	排泄予知デバイス・自動排泄処理装置
見守り・コミュニケーション	施設用・在宅用見守りセンサー・対話ロボット
入浴支援	入浴動作を補助するロボット・システム
介護業務支援	介護記録システム・AIによるケアプラン作成
機能訓練支援（新設）	リハビリ動作の計測・自動解析システム
食事・栄養管理支援（新設）	誤嚥検知センサー・栄養状態のモニタリング
認知症生活・ケア支援（新設）	認知症の方の生活リズム維持や安全確保支援

講義資料②－１　介護テクノロジー

（参考）介護テクノロジー利用の重点分野の全体図と普及率

移乗支援（装着）：介助者のパワーアシストを行う装着型の機器。普及率 9.7%
移乗支援（非装着）：介助者による移乗動作のアシストを行う非装着型の機器
移動支援（屋外）：高齢者等の屋外外出をサポートし、荷物等を安全に運搬できるロボット技術を用いた歩行支援機器
移動支援（屋内）：高齢者等の屋内移動や立ち座りをサポートし、特にトイレへの往復やトイレ内での姿勢保持を支援するロボット技術を用いた歩行支援機器。普及率 1.2%
排泄支援（排泄処理）：排泄物の処理にロボット技術を用いた設置位置の調整可能なトイレ。普及率0.5%
排泄支援（排泄予測・検知）：排泄を予測又は検知し、排泄タイミングの把握やトイレへの誘導を支援する機器
排泄支援（動作支援）：ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器
見守り（施設）：介護施設において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム。普及率 30.0%
見守り（在宅）：在宅において使用する、各種センサー等や外部通信機能を備えた機器システム、プラットフォーム。普及率 10.2%
コミュニケーション：高齢者等のコミュニケーションを支援する機器
入浴支援：入浴におけるケアや動作を支援する機器。普及率 11.2%
介護業務支援：介護業務に伴う情報を収集・蓄積し、それを基に高齢者等への介護サービス提供に関わる業務に活用することを可能にする機器・システム。普及率 10.2%
機能訓練支援：介護職等が行う身体機能や生活機能の訓練における各業務（アセスメント・計画作成・訓練実施）を支援する機器・システム
食事・栄養管理支援：高齢者等の食事・栄養管理に関する周辺業務を支援する機器・システム
認知症生活支援・認知症ケア支援：認知機能が低下した高齢者等の自立した日常生活または個別ケアを支援する機器・システム

※赤破線で囲っている、排泄支援（排泄予測・検知）、見守り（施設）、見守り（在宅）、コミュニケーション、介護業務支援、機能訓練支援、食事・栄養管理支援、認知症生活支援・認知症ケア支援の項目においては他の機器・システムとの連携を定義文において明記
※項目別の普及率は、『令和３年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査結果』を引用
※緑枠線の、新たに追加される機能訓練支援・食事・栄養管理支援・認知症生活支援・認知症ケア支援の３項目に関しては、上記調査を実施していないため、普及率は未記載

講義資料②ー２　介護テクノロジー

「介護テクノロジー利用の重点分野」の定義（既存分野の見直し）

【既存分野の見直し】

移乗支援（装着）

介助者のパワーアシストを行う装着型の機器

（定義）

▶ベッド、車いす、便器等の間を、高齢者等にとって負担がなく、安心して移乗することを支援する。
▶介助者が装着して用い、移乗介助の際の身体の負担を軽減する。
▶移乗開始から終了まで、介助者が一人で使用することができる。
▶介助者が一人で着脱可能であること。

重点分野のイメージ（空欄）

排泄支援（動作支援）

ロボット技術を用いてトイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援する機器（定義）

▶使用者が一人で使用できる又は一人の介助者の支援の下で使用できる。
▶トイレ内での下衣の着脱等の排泄の一連の動作を支援することができる。
▶トイレ内での方向転換、便座への立ち座り、清拭の支援が可能であれば、加点評価する。
▶トイレ内での使用者の姿勢や排泄の終了などを検知して介助者に伝えることが可能であれば、加点評価する。
▶標準的な家庭のトイレ内で使用可能であれば、加点評価する

重点分野のイメージ（空欄）

講義資料③ー３　介護テクノロジー

2. 予算と補助金の仕組み

国（厚生労働省）が予算を確保し、それを財源として各自治体（都道府県）が補助金を交付する仕組みです

財源：地域医療介護総合確保基金

国から各都道府県に配分される「地域医療介護総合確保基金」が主な財源です。2025年度以降も、介護DXや生産性向上を加速させるため、数億〜数十億円単位の予算が継続的に投じられています。

主な補助金制度：介護テクノロジー導入支援事業

事業所が重点分野の機器を導入する際、以下のような補助が受けられます（※自治体により詳細は異なります）。

- パッケージ型導入支援：「見守りセンサー＋インカム＋介護記録ソフト」など、複数を組み合わせて導入する場合に手厚い補助が出る傾向にあります（上限例：750万〜1,000万円）。
- 補助率：通常は 1/2 ですが、一定の要件（生産性向上の取り組み等）を満たすと 3/4 まで引き上げられる制度もあります。
- 対象経費：機器の購入費だけでなく、初期設定費や通信環境（WiFi）の整備費用も対象に含まれるケースが増えています。



教材　PBL①**改訂版**

PBL教材①（回答例付）

多国籍共生介護現場における
AI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

第1段階（PBL①）演習編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(1)【グループワーク・ディスカッション】

下の✓について、グループワークで議論してみましょう。

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

- ✓この施設の課題は何か
- ✓この施設の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか
- ✓利用者を移乗支援する際、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか
- ✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か
  - ① 目標設定（AI機器を導入するにあたってどういったことを成し遂げるか）
  - ② 情報収集（導入予定のAIの活用事例等をリサーチ）
  - ③ 導入計画（いつ購入・導入、機器使用のプラクティススケジュール、AI機器を活用するのは誰？等の計画策定）
  - ④ ※導入
  - ⑤ ※運用（※については、第2段階にて議論を予定）
- ✓導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）



教育プログラムの構成

教育プログラムの構成

教育プログラムは、以下の第1～3段階の手順で進めていきます。

主な対象者は、介護施設等におけるマネージャー及びその候補者の方々です。

特に、外国人介護士が従事している施設や、今後外国人介護士の採用を決定・検討している施設の方を想定しています。



第1段階

- 受講者は職場における課題やニーズについて、部下や上司とともに分析を行います。
- 課題解決のために有効なツール（AI）を選定します。
- 現場に導入する計画を立案します。

PBLとは

PBL（Project Based Learning）とは

PBLとは

PBLとは「Project Based Learning」の略称であり、例えば一般的には以下のように説明されています。

情報システム開発等のプロジェクトを課題として設定し、学習者を中心に編成されたプロジェクトチームによる主体的な取り組みを促し、課題を解決させていく教育方法。
課題解決を通して実践的なスキルと知識を習得します。



PBLとは

PBL（Project Based Learning）とは ― 通常の学習 vs PBLによる学習

◆通常の学習◆

- 講師主導で講義・演習を実施
- 講義（知識）や演習を通して学ぶ
- 知識や技術の習得
- 新しい知識の獲得（知識先行）→提示された課題の解決

◆PBLによる学習◆

1. マネージャー主導でAI選定、計画立案
2. 事例を通じて学習、実際の計画作成（議論や報告・計画案作成）
3. 知識・スキルの習得、コンピテンシーの獲得

課題や問題の認識→解決の為のAI選定と計画案の作成

PBLとは

PBL（Project Based Learning）とは ― 各段階の内容

01 第1段階

- 職場の課題抽出（環境・ヒト）
- AIニーズ分析と選定
- 導入計画案

02 第2段階

新しい知識の獲得（知識先行）→提示された課題の解決

- 課題抽出、分析
- AI情報収集、選定
- AI導入計画案作成

課題や問題の認識→解決の為のAI選定と計画案の作成

リカレント教育プログラム

リカレント教育プログラム 学習の内訳（案）

学習内容	アウトプット	時間配分
オリエンテーション	―	0.5時間
第1段階（令和5年度）・導入計画作成	―	―
施設における課題抽出	―	3.5時間
AIニーズの分析	―	3.0時間
AIツールの選定	―	3.5時間
AI導入計画案作成	―	9.5時間
合計	―	**20.0時間**

- 施設における課題抽出は、環境及び人的な課題をマネージャークラスで話し合い、解決策についても意見交換をします。
- AIニーズ分析・選定については、課題解決のツールとして活用するにあたって、適しているか、何が良いかを話し合います。
- AI導入計画案作成は、導入する時期や使用する対象者（利用者含む）ほか、導入後のアウトプットについても話し合います。

第1段階 事例把握

【第1段階】施設における課題抽出

介護現場における課題に向き合い、その解決のツールとしてAIの活用を検討しています。

「課題」については、施設のスタッフそれぞれが、共通の認識＝解決しなくてはいけないという思いを持って、用途を明確にして、選定、導入計画を作ることが必要だと考えています。

マネージャーは、スタッフ全員から、施設の運営において、問題点や課題と感じていることを事前にヒアリングをしておきます。

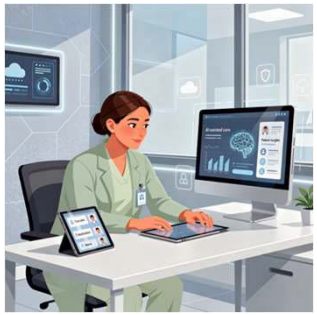
マネージャー同士で、意見交換を行い、取りまとめを行います。（特に、環境面や人的な課題、サービス提供時における課題など）



第1段階 事例把握

【第1段階】AIニーズの分析／AIツールの選定

- 具体的にサービスを提供する場面や、対象者などを想定しつつ、施設に必要と思われるAIの選定を行います。
- 介護サービスを提供する場面（見守りや排せつ、入浴、スタッフ間のコミュニケーションなど）で先に出ている課題と照らし合わせて、必要な機器の情報収集を行います。
- 選定に際しては、どこに重点を置くかについても議論します。



第1段階 事例把握

【第1段階】選定したAIの導入計画案の作成

導入する予定の機器が上手に活用できるように、導入計画案を作成します。

また、導入においては、①〜⑤（※④⑤については別途）を意識した計画を作成します。

1. 目標設定	2. 情報収集	3. 導入計画
4. 導入	5. 運用（と振り返り）	

（例）
6か月前：ニーズ整理・機器比較
3か月前：見積取得・補助金確認
1か月前：職員説明会・試用
導入後：1か月ごとに振り返り

リカレント教育プログラム

リカレント教育プログラム 概要

学習目標

実践的なAIを導入した多国籍共生介護現場における協働及びコミュニケーション支援の方法を学び、課題解決に取り組む力を養います。

学習テーマ（PBL①）

知識・スキルの習得、コンピテンシーの獲得

学習時間

総学習時間 **20.0時間**

1. 職場の課題とは、ニーズや課題の分析
2. AIツールの選定と導入

第1段階（PBL①）演習編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(1)【舞台・状況】

【舞台】

社会福祉法人（神奈川県）

1. 介護老人福祉施設、短期入所生活介護、
2. デイサービスを運営する社会福祉法人で、職員数は約100名。

【施設における課題】

※状況から考えられる課題を記載してください。

【状況】

スタッフは10代〜70代までと幅広い。

経営層は先の不安も見越して、補助金や助成金を活用したAI機器の導入を検討しています。

現在は介護サービスの提供の場面においてAIを活用することについて検討を進めたいと考えています。

従来、この施設では体重がある利用者への移動支援に対して、2名での介助を行っていました。

他の支援業務もあり、スタッフの身体への負担が大きい為、AI機器の活用でスタッフの身体的な負担軽減を図りたいと思っています。

年配の人は抵抗があり、触りもしない。

納得感を持って活用してもらう為にはどうしたら良いか。

職員の負担が今以上に増えないようにし、業務が軽減できることを目的に導入と活用を進めたいと考えています。

第1段階（PBL①）演習編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(1)【状況・続き】

【状況】ロボットの導入を推し進める40代の男性管理者Aに対して、50代の男性スタッフBから、現在のスタッフで十分に対応できているのに、AI機器（移乗サポートロボット）の導入は必要か？との意見が出されました。

他にも10年以上の現場経験のある50代の男性スタッフCからも、「2名で利用者を移乗すれば移乗サポートロボットを入れる必要がない」との意見が出されました。

両名は明らかに導入に反対の姿勢を示しています。

これまで新たな取り組みに対しての異論・反論に対しても、Aは真摯に向き合い、時間をかけて話し合いをし、取り組みを実践してきました。

この施設の課題と解決の為に必要なAI機器の選定を行いましょう。

ロボットの活用はダメですか？

必要ありませんよ。なぜ導入するの？面倒くさいし…

第1段階（PBL①）演習編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(2)【舞台・状況】

【舞台】

医療法人（千葉県）が以下の施設を運営しています。

- 介護老人保健施設
- 短期入所療養介護
- 通所リハビリテーション
- 居宅介護支援

職員数は100名です。

【施設における課題】

※状況から考えられる課題を記載してください。

【状況】

- これまでこの法人では、以下のような状況がありました。
- 職員定着率の低さ
- 残業が多い
- 有休を消化できない
- 特定の職員しか知らない情報があり、休むと様々な業務に支障が出る

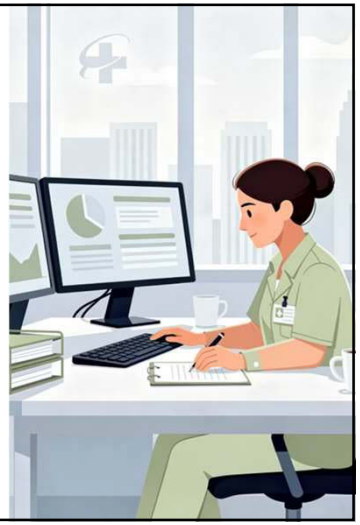
施設長は、こうした状況を踏まえて「意識改善だけでは解決に至らない、そのためにはAI機器の導入や活用が必要ではないか」と提案をしました。
特に夜勤の対応ができるスタッフに限りがあり、経験が浅いスタッフには任せられることも少ないため、一部のスタッフに大きな負担がかかっていました。

第1段階（PBL③）演習編～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(2)【状況・続き】

【状況】現在、法人内で特に負担となっているのは、
③通所介護リハビリテーションの利用者の連絡帳への転記です。
一部のスタッフは、一人あたり2時間ほどたっぷりとした時間を掛けて丁寧に書いています。
管理者Aさんは「効率よく転記できれば他の業務もできるのに（泣）」と
いつも言葉を選んで指導をしていますが、
パートBさん、Cさんはまともに取り合おうとはしません。
管理者Aさんが強く言うと、BさんCさんからは「辞める」との発言があり、
対応に苦労しています。
BさんCさんとも管理者Aさんよりも年上で、職歴も長い。

こうした状況の中、管理者Aより、
AIの選定や導入手続きなど、一切を委任されたDさん。
どういったプロセスで進めたら良いか？
この施設の課題と解決の為に必要なAI機器の選定を行いましょう。
ただでさえ、人手不足　無駄なことはやめてほしい（怒）
うちの施設で必要なAI機器って何？
これまでAI機器は入れていないし…ホントは面倒だ（泣）



第1段階（PBL①）演習編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(2)【グループワーク・ディスカッション】

下の✓について、グループワークで議論してみましょう。

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

- ✓この法人（特に通所介護リハビリテーション）の課題は何か
- ✓この法人（特に通所介護リハビリテーション）の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか
- ✓業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか
- ✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か

①目標設定　②情報収集　③導入計画　④※導入　⑤※運用（※については、第2段階にて議論を予定）

- ✓導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）



第1段階（PBL①）演習編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(3)【舞台・状況】

【舞台】

株式会社（首都圏）

- ①施設介護事業
- ②通所介護事業
- ③居宅介護事業
- ④訪問介護事業・障害支援事業
- ⑤福祉用具・住宅改修事業ほか

職員数は415名。

男女比は男性1：女性3と女性の割合が多い。

【施設における課題】

※状況から考えられる課題を記載してください

。

【状況】

この法人では、離職率の高さ、残業時間の多さが課題となっています。

第1段階（PBL①）演習編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(3)【状況・続き】

【状況】

幹部会議において、施設介護事業部門の部長がリーダーとなり、法人内でプロジェクトを組織し、導入計画を作成することとなりました。

導入（及び活用）に際しては様々な障壁があると思われる為、どういった手法において進めていくか、検討する必要があります。

職員が増えてきたこともあり、業務において効率化、生産性向上が求められます。

特に、職員の就業管理や、管理部門の体制強化が急務となっています。

第1段階（PBL①）演習編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(3)【グループワーク・ディスカッション】

下の✓について、グループワークで議論してみましょう。

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

- ✓プロジェクトメンバーが取り組むべき法人の課題は何か
- ✓この法人の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか
- ✓業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか
- ✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か

①目標設定　②情報収集　③導入計画　④※導入　⑤※運用（※については、第2段階にて議論を予定）

- ✓導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(1)【舞台・課題】

【舞台】

社会福祉法人（神奈川県）

①介護老人福祉施設、短期入所生活介護、②デイサービスを運営する社会福祉法人で、職員数は約100名。

【施設における課題】

- 職員間のコミュニケーションが不足している。
- 法人や施設、事業所の理念についての共通理解が乏しい。
- AIへの接点が少なく、導入に対する抵抗感がある。

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(1)【状況・続き】

【状況】

ロボットの導入を推し進める40代の男性管理者Aに対して、50代の男性スタッフBから、現在のスタッフで十分に対応できているのに、AI機器（移乗サポートロボット）の導入は必要か？との意見が出されました。
他にも10年以上の現場経験のある50代の男性スタッフCからも、「2名で利用者を移乗すれば移乗サポートロボットを入れる必要がない」との意見が出されました。
両名は明らかに導入に反対の姿勢を示しています。

これまで新たな取り組みに対しての異論・反論に対しても、Aは真摯に向き合い、時間をかけて話し合いをし、取り組みを実践してきました。

【目標】

この施設の課題抽出とその解決の為に必要なAI機器の選定を行いましょう。

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(1)【ディスカッション設問】

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

- この施設の課題は何か
- この施設の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか
- 利用者を移乗支援する際、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか
- 選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(1)【回答例】

回答例）【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

✓ この施設の課題は何か

✓課題解決に向けた取り組み
⇒ コミュニケーション不足、AIへの接点少ない
⇒ ベクトル合わせ（目指すところは一緒、アプローチ方法に相違がある）

✓必要と思われるAI機器
⇒ Hug、SASUKE、HAL などの移乗サポートロボットなど、スタッフの身体的負担を軽減する機器

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(2)【舞台・課題】

【舞台】

医療法人（千葉県）①介護老人保健施設②短期入所療養介護③通所リハビリテーション④居宅介護支援を運営しており、職員数は100名。

【施設における課題】

- 法人（③通所介護リハビリテーション）におけるスタッフ間のより良い関係性、コミュニケーションが不足している。
- 限られた人員でサービスを提供する為、無駄があると他のスタッフや利用者へのサービスに影響が出る。

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(2)【状況・続き】

【状況】

現在、法人内で特に負担となっているのは、③通所介護リハビリテーションの利用者の連絡帳への転記です。

一部のスタッフは、一人あたり2時間ほどたっぷりと時間を掛けて丁寧に書いています。

管理者Aさんが強く言うと、「辞める」との発言があり、対応に苦労しています。

BさんCさんとも管理者Aさんよりも年上で、職歴も長い。

こうした状況の中、管理者Aさんは対応に苦慮しています。

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(2)【ディスカッション設問】

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

- ✓この法人（特に通所介護リハビリテーション）の課題は何か
- ✓この法人（特に通所介護リハビリテーション）の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか
- ✓業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか
- ✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か

①目標設定　②情報収集　③導入計画　④※導入　⑤※運用（※については、第2段階にて議論を予定）

- ✓導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(2)【回答例】

回答例）【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

✓課題は何か

✓課題解決に向けた取り組み

- スタッフ間のコミュニケーション不足
- ベクトル合わせ（利用者へ寄り添う思い、スタッフの負担軽減など）はどのスタッフでも共有可能ではないか

✓必要と思われるAI機器

⇒記録業務を効率化するICTツール・介護ソフトの導入

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(3)【舞台・課題】

【舞台】

株式会社（首都圏）

- 施設介護事業
- 通所介護事業
- 居宅介護事業
- 訪問介護事業・障害支援事業
- 福祉用具・住宅改修事業ほか

職員数は415名。

【施設における課題】

- 急成長の組織であり、入職者が増えてきたこともあり、導入や活用に対する障壁がある。
- 離職率の高さ、情報共有の不足が課題。

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(3)【状況・続き】

【状況】幹部会議において、施設介護事業部門の部長がリーダーとなり、法人内でプロジェクトを組織し、導入計画を作成することとなりました。

導入（及び活用）に際しては様々な障壁があると思われる為、どういった手法において進めていくか、検討する必要があります。職員が増えてきたこともあり、業務において効率化、生産性向上が求められます。特に、職員の就業管理や、管理部門の体制強化が急務となっています。

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(3)【ディスカッション設問】

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

- プロジェクトメンバーが取り組むべき法人の課題は何か
- この法人の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか
- 業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか
- 選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か
  a. 目標設定
  b. 情報収集
  c. 導入計画
  d. ※導入
  e. ※運用（※については、第2段階にて議論を予定）
- 導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

第1段階（PBL①）回答編 ～施設における課題抽出～

PBL教材 事例把握(3)【回答例】

回答例）【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

✓法人の課題は何か

✓課題解決に向けた取り組み

- 組織の拡大に伴う「業務効率化」「生産性向上」。実際に進めるにあたっては、スタッフのITリテラシーの強化が必要である。
- プロジェクトメンバーが担当する事業について、定期的に情報発信を行うことが重要。

第1段階（PBL①）演習編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(1)【状況・続き】（AIニーズ分析

【状況】

幹部会議において、施設介護事業部門の部長がリーダーとなり、法人内でプロジェクトを組織し、導入計画を作成することとなりました。
導入（及び活用）に際しては様々な障壁があると思われる為、どういった手法において進めていくか、検討する必要があります。
職員が増えてきたこともあり、業務において効率化、生産性向上が求められます。
特に、職員の就業管理や、管理部門の体制強化が急務となっています。

第1段階（PBL①）演習編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(1)【グループワーク・ディスカッション】（AIニーズ分析）

下の✓について、グループワークで議論してみましょう。

✓プロジェクトメンバーが取り組むべき法人の課題は何か

✓この法人の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか

✓業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか

✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か

- ①目標設定
- ②情報収集
- ③導入計画
- ④※導入
- ⑤※運用（※については、第2段階にて議論を予定）

✓導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）



第1段階（PBL①）演習編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(2)【舞台・状況】（AIニーズ分析

【舞台】株式会社（神奈川県）

デイサービスを運営しており、機能訓練指導員のもと機能の維持・向上を図ることを目的に運営している.

従業員数25名.

【施設における課題】

※状況から考えられる課題を記載してください.

【状況】

管理者Aさんは、昨今の新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から様々な補助金や助成金があることから、それらを活用して、施設のICT化を本格的に推進したいと考えています.
現場が今まで以上に多忙を極め、特にこれまでの転記作業では限界を感じています.

- どのソフトが自事業所に合うのか、見当がつかない.
- 施設もICT化を本格的に推進したいと考えている.
- どうやって進めたらいいのか、職員の士気やサービスに影響があるかもしれないので不安だ.

こうした状況の中、管理者Aさんより、ソフトの選定や導入手続きなど、一切を委任されたBさん.
Bさんは、どういったプロセスで進めたら良いか？



第1段階（PBL①）演習編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(2)【登場人物・状況】（AIニーズ分析）

スタッフの声

ただでさえ人手不足！無駄なことはやめてほしい（怒）

管理者の声

うちの施設で必要なソフトって何？

別スタッフの声

新しいものを取り入れることは不安だ…ホントは面倒だ（泣）

第1段階（PBL①）演習編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(2)【グループワーク・ディスカッション】（AIニーズ分析）

下の✓について、グループワークで議論してみましょう。

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

- ✓この事業所の課題は何か
- ✓この事業所の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか
- ✓業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか
- ✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か①目標設定　②情報収集　③導入計画　④※導入　⑤※運用（※については、第2段階にて議論を予定）
- ✓導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

第1段階（PBL①）回答編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(1)【舞台・課題】（AIニーズ分析 回答）

【舞台】

株式会社（首都圏）

- ①施設介護事業
- ②通所介護事業
- ③居宅介護事業
- ④訪問介護事業・障害支援事業
- ⑤福祉用具・住宅改修事業ほか

職員数：415名 男女比：男性1：女性3

【施設における課題】

離職率が高く、情報共有が十分行えていないのではないか。人材確保・育成・定着が課題。

第1段階（PBL①）回答編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(1)【状況・続き】（AIニーズ分析 回答）

【状況】

幹部会議において、施設介護事業部門の部長がリーダーとなり、法人内でプロジェクトを組織し、導入計画を作成することとなりました。
導入（及び活用）に際しては様々な障壁があると思われる為、どういった手法において進めていくか、検討する必要があります。
職員が増えてきたこともあり、業務において効率化、生産性向上が求められます。

第1段階（PBL①）回答編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(1)【回答例①】（AIニーズ分析）

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

法人の課題は何か

⇒法人は年1～2拠点の開設を目指しており、その為には人材流出は避けたいところ。人材確保や育成、定着の障害となっている離職率増などが考えられる。

必要と思われるAI機器

⇒就業管理システム、情報共有ツール、スタッフコミュニケーションアプリなど

第1段階（PBL①）回答編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(1)【回答例②】（AIニーズ分析）

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か

前提として、「課題」解決に至るツールであるかの確認が必要となります。

その後に選定、購入・導入日を決定し次第、搬入日を確認し、事前にいつ、どんな機種が導入されるのか、どの利用者に使用するのか、スタッフへの周知・研修を行います。

第1段階（PBL①）回答編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(2)【舞台・課題】（AIニーズ分析 回答）

【舞台】

株式会社（神奈川県）①デイサービスを運営しており、機能訓練指導員のもと機能の維持・向上を図ることを目的に運営している。従業員数25名。

【施設における課題】

昨今の業界を取り巻く状況（外的な課題）が挙げられます。少子高齢化社会、就業人口減といった世相も反映して、人材の確保や育成が難しく、利用者を受け入れる施設や環境の整備が求められています。

第1段階（PBL①）回答編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(2)【状況・続き】（AIニーズ分析 回答）

【状況】

管理者Aさんは、昨今の新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から様々な補助金や助成金があることから、それらを活用して、施設のICT化を本格的に推進したいと考えています。
現場が今まで以上に多忙を極め、特にこれまでの記録の転記では限界を感じています。

- どのソフトが自事業所に合うのか、見当がつかない。
- 施設もICT化を本格的に推進したい。
- どうやって進めたらいいのか、職員の士気やサービスに影響があるかもしれないので不安だ。

第1段階（PBL①）回答編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(2)【回答例①】（AIニーズ分析）

この事業所の課題は何か

現在の業務（特に記録の転記）については、限界を感じているが、対策を講じてないことに課題がある。

課題解決に向けた取り組み

現在の業務（特に記録の転記）については、限界を感じているが、対策を講じてないことに課題がある。

必要と思われるAI機器

事業所のICT化。補助金・助成金を活用した介護ソフトの導入を検討する。

第1段階（PBL①）回答編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(2)【回答例②・状態分析①②】（AIニーズ分析）

✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か

⇒ 事業所における状態分析を行います。

（重複・項目が多い・事業別に書式が異なる・データ差し替えが多い・作業が多い等の課題）

そのほか、検討する機器の魅力出しを行います。

- 費用
- 機能
- サポート
- トータル（メリット／デメリット）を整理します。

第1段階（PBL①）回答編 ～AIニーズの分析～

PBL教材 事例把握(2)【参考：状態分析③】（AIニーズ分析）

【参考】事業所における状態分析③　検討する機器の魅力出し（比較）

	A社	B社
費用	165千円（導入） 123千円（月額）	643千円（導入） 130千円（月額）
機能	操作性:行き来が多い シフト管理:— 給与計算:対応可、交通費× 記録・実績:請求連動可	操作性:易 アプリ感覚 シフト管理:— 給与計算:対応可、交通費× 記録・実績:連動性高、修正手間が多い
サポート体制		
メリット	費用が安い、信頼度高い	費用がまるめ、操作性高い、連動性高い
デメリット	オプション多い、連動性微妙	記録ソフトの実績時間が課題

第1段階（PBL①）演習編 ～課題解決の為のAI選定～

PBL教材 事例把握(1)【舞台・状況】（AI選定）

【舞台】 医療法人（千葉県）

- ①介護老人保健施設
- ②短期入所療養介護
- ③通所リハビリテーション
- ④居宅介護支援

上記を運営しており、職員数は100名。

【施設における課題】

※状況から考えられる課題を記載してください。

【状況】

これまでこの法人では、職員定着率の低さ、残業が多い、有休を消化できない、一定の職員しか知らない情報があり休むと様々な業務に支障が出るなどの状況がありました。
施設長は、こうした状況を踏まえて「意識改善だけでは解決に至らない、その為にAI機器の導入や活用が必要ではないか」と提案をしました。
特に夜勤の対応が出来るスタッフに限りがあり、経験が浅いスタッフには任せられることもあり、一部のスタッフに負担が大きくなっていました。
現在、法人内で特に負担となっているのは、③通所介護リハビリテーションの利用者の連絡帳への転記です。
一部のスタッフは、一人あたり2時間ほどたっぷりと時間を掛けて丁寧に書いています。
管理者Aさんが強く言うと、「辞める」との発言があり、対応に苦慮しています。

第1段階（PBL①）演習編 ～課題解決の為のAI選定～

PBL教材 事例把握(1)【登場人物・状況】（AI選定）

こうした状況の中、管理者Aさんより、AIの選定や導入手続きなど、一切を委任されたDさん。

どういったプロセスで進めたら良いか？

この施設の課題と解決の為に必要なAI機器の選定を行いましょう。

- ただでさえ、人手不足　無駄なことはやめてほしい（怒）
- うちの施設で必要なAI機器って何？
- これまでAI機器は入れていないし…ホントは面倒だ（泣）

第1段階（PBL①）演習編 ～課題解決の為のAI選定～

PBL教材 事例把握(1)【グループワーク・ディスカッション】（AI選定）

下の✓について、グループワークで議論してみましょう。

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

✓この法人（特に通所介護リハビリテーション）の課題は何か	✓この法人（特に通所介護リハビリテーション）の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか	✓業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか	✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か①目標設定　②情報収集　③導入計画　④※導入　⑤※運用（※については、第2段階にて議論を予定）

✓導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

第1段階（PBL①）演習編 ～課題解決の為のAI選定～

PBL教材 事例把握(2)【舞台・状況】（AI選定）

【舞台】

株式会社（神奈川県）は、デイサービスを運営しており、機能訓練指導員のもと機能の維持・向上を図ることを目的に運営しています。 従業員数は25名です。

【施設における課題】

※状況から考えられる課題を記載してください。

【状況】

管理者Aさんは、昨今の新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から様々な補助金や助成金があることから、それらを活用して、施設のICT化を本格的に推進したいと考えています。
現場は今まで以上に多忙を極め、特にこれまでの転記作業では限界を感じています。

- どのソフトが自事業所に合うのか、見当がつかない。
- 施設もICT化を本格的に推進したい。
- どうやって進めたらいいのか、職員の士気やサービスに影響があるかもしれないと不安だ。

こうした状況の中、管理者Aさんより、ソフトの選定や導入手続きなど、一切を委任されたBさん。 どういったプロセスで進めたら良いでしょうか？

> 「ただでさえ人手不足！無駄なことはやめてほしい（怒）」
> 「うちの施設で必要なソフトって何？」
> 「新しいものを取り入れることは不安だ…ホントは面倒だ（泣）」

第1段階（PBL①）演習編 ～課題解決の為のAI選定～

PBL教材 事例把握(2)【グループワーク・ディスカッション】（AI選定）

下の✓について、グループワークで議論してみましょう。

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

- ✓この事業所の課題は何か
- ✓この事業所の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか
- ✓業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか
- ✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か①目標設定　②情報収集　③導入計画　④※導入　⑤※運用（※については、第2段階にて議論を予定）
- ✓導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

第1段階（PBL①）回答編 ～課題解決の為のAI選定～

PBL教材 事例把握(1)【回答例①】（AI選定 回答）

✓課題は何か

コミュニケーションがどれだけ取れているか。
管理者は責任者で責任を取る人で、私たちは利用者へのケア（直接・間接含む）だけとの認識があるのではないか。

✓課題解決に向けた取り組み

コミュニケーションがどれだけ取れているか。
管理者は責任者で責任を取る人で、私たちは利用者へのケア（直接・間接含む）だけとの認識があるのではないか。

✓必要と思われるAI機器

継続的なコミュニケーションが求められるが、その際は、常日頃よりベクトルを合わせて、「利用者（家族）の為、スタッフの為」、アプローチ方法は違っても、思いは同じであることを共有する必要がある。
具体的に負担がある業務、時間を要する業務について導入を検討することが望ましい。

- まもる君クラウド（https://kaigo.intertrust.jp/product/dayservice/）
- ナーシングネットプラスワン（https://www.nn-kaigo.jp/service-list/tsusyo/）

第1段階（PBL①）回答編 ～課題解決の為のAI選定～

PBL教材 事例把握(1)【回答例②】（AI選定 回答）

選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か

⇒ 業務効率化、これまでかかっていた時間を半減させる。

⇒ 特に時間を要していた業務時間を削減できるソフト（転記の部分）

⇒ 新年度より導入し、四半期ごとに振り返りと評価を行う、導入に際しての責任者は管理者Aさん等々

（※については、第2段階にて議論を予定）

- 目標設定
- 情報収集
- 導入計画
- ④※導入
- ⑤※運用

導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

⇒ 導入後は四半期ごと（最初は6月末）など

第1段階（PBL①）回答編 ～課題解決の為のAI選定～

PBL教材 事例把握(2)【回答例①②】（AI選定 回答）

✓この事業所の課題は何か
✓課題解決に向けた取り組み

⇒それぞれのスタッフが専門性を持って日々業務に取り組んでいるが、施設の課題についてどこまで関心を持っているか。
関心があったとしても、意見を言う、要望を出すだけに止まっていないか？

✓必要と思われるAI機器

- 情報の共有（特に現在、課題となっていることや問題点、先々起こりうるであろうリスクなど）とその対応策についての協議をスタッフが必要ではないか。
- 汎用性を求めると、価格か、使いやすさか、現在の課題から見ると、業務負担となっている部分が何かを見極める必要がある。

ワイズマンシステムSP（https://www.wiseman.co.jp/products/welfare/daycare/group/）
ケアカルテ（https://www.carekarte.jp/carekarteabout/）

第1段階（PBL①）回答編 ～課題解決の為のAI選定～

PBL教材 事例把握(2)【回答例③】（AI選定 回答）

✓選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か

目標設定	情報収集 • 業務負担となっている部分の洗い出しと、振り返り時期の設定。 • 通所介護向けで、費用、フォロー体制、使用している介護ロボット等との連携が出来るかなどをリサーチして、メーカープレゼン、見積書の取得など。
導入計画	④※導入　⑤※運用 • 例）4月～、その為には3カ月～6カ月前から①②を行い、導入の責任者はAさん、実際の活用計画の策定や、スタッフへの説明はBさんと役割を決めて実施する。 （※については、第2段階にて議論を予定）

✓導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

- 導入後、四半期をめどに通年で振り返りと評価の時間を設ける。
- 自施設での活用事例を共有することで、スタッフが関心を持つことになれば、さらに良い。

第1段階（PBL①）演習編 ～AI導入計画案作成～

PBL教材 事例把握(1)【舞台・状況・計画書(案)】（AI導入計画案）

【舞台】

株式会社（神奈川県）が①デイサービスを運営しており、機能訓練指導員のもと機能の維持・向上を図ることを目的に運営しています。
従業員数25名。

管理者Aさんより、ソフトの選定や導入手続きなど、一切を委任されたBさん。

どういったプロセスで進めたら良いでしょうか？

【計画書（案）】

1. 計画書の目的を明確にする。
2. 現在の施設における課題を具体的に記載する。
3. 導入のスケジュールとワークフロー
4. 企画及び計画の内容を具体的に簡潔に記載をし、導入に向けた具体的な動きを記載する。（機器の写真や説明なども）
5. 導入するメリット及び効果を具体的に記載する。

（補足）

資料は見やすく、説明は簡潔に、アピールポイントは明確に、聞き手の立場に立った話し方、伝え方を心掛ける。
Q＆Aの準備を行う。

特に、【3】と【5】については質問が予想されるので、想定問答の作成を行う。

第1段階（PBL①）演習編 ～AI導入計画案作成～

PBL教材 事例把握(1)【状況説明・作業手順・企画書とは】（AI導入計画案）

（1）状況説明

今までの報告を受け、法人本部より、現場において活用する介護ソフト（記録や連絡、他機種との連携などができる）の導入を検討し、進めてほしいとの指示がありました。
Bさんは、管理者Aさんより介護ソフト導入（及び活用）の為の企画書を作成し、提案してほしいと依頼がありました。
次の経営会議において、代表を含めて経営陣との会議で企画を提案することとなりました。

◆作業手順

1. 【手順1】計画書を作成するにあたり、機器情報を整理する。
2. 【手順2】整理した情報をまとめ、計画書を作成。
3. 【手順3】作成した計画書の内容を経営陣へ説明をして、導入の了承を得る。

◆参考情報：企画書とは？

企画書は、新しいビジネスプロジェクト、イベント、製品、サービス、キャンペーンなどの計画を伝えるための文書で、

自分のアイデアを他の人に説明する為のものです。

第1段階（PBL①）演習編 ～AI導入計画案作成～

PBL教材 事例把握(1)【企画書の構成・注意事項・参考URL】（AI導入計画案）

I. 企画書の構成

II. 計画書作成・発表する上での注意事項

◆現状分析：現状の問題点と市場の動向といった外部環境、社内のリソースといった内部環境などの因果関係を整理し、説明する。

◆企画の目的と全体像：課題を抽出し、課題に対してどのように解決するのか、目指す方向を示す。

◆企画の具体的な内容（誰に、どうやって）：どのようなターゲットに何を使って、どういう方法を使うのかを明らかにする。

◆スケジュール：導入に向けて、行うことを明確にし、スケジューリングする。

◆収支計画：導入費用、ランニングコスト、またそれがどのように回収できるか明らかにする。

計画書の目的を明確にする

課題を把握する

ワークフローを明確にする

計画内容の裏付けを取り、信頼性の高い資料にする

採用するメリットを明確にする

資料は見やすくする

説明はなるべく簡潔に

第1段階（PBL①）回答編 ～AI導入計画案作成～

PBL教材 事例把握(1)【回答例：計画書①・まとめ】（AI導入計画案 回答）

発表シート：

- ①施設名：株式会社〇〇〇〇 デイサービス××
- ②発表者：介護主任 B
- ③構成メンバー：介護主任 B・管理者 A・理学療法士 C 以上3名

■AI機器導入の背景

介護ソフト導入を検討。
「紙」での記録では多職種が記載・共有できない為、質の高いサービスが提供出来ない。

■利用ターゲット・サービス概要

利用ターゲット：スタッフ及び利用者（家族）
サービス形態：デイサービス（機能訓練型）
導入ソフト：ケアコラボ（https://page.carecollabo.jp/）
費用：職員一人当たり968円（税込）／月額
25名の場合は24,200円（税込）／月額

■期待される効果・課題・まとめ

期待される効果：

- 多職種間で情報共有が可能。
- バイタル・ケアプラン・生活リズムなど利用者情報の集約が可能。

課題：

- 初めて活用するスタッフの抵抗感。

目標数値：

- 業務時間（間接業務）の削減…30時間／月（一人あたり80分）
- 残業時間の削減…30時間／月（一人あたり80分）

まとめ：
法人理念「すべてをご利用者様の視点で」「質の高いサービスを提供の為に連携と協力を強固にする」を念頭に、
ケアコラボの導入と活用を通じて業務効率化・生産性向上を目指します。

専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業

（参照）【企画書（案）】

■企画書を作成・提出する目的

機器の導入（及び活用）を行うことで、施設における質の高いサービス提供につながり、スタッフの負担軽減や利用者満足度向上、さらにはご家族からの信頼関係強化にも繋がるなど。
実際にスタッフの負担軽減はどのサービスやどの場面において、どれ位の業務量削減に至るか。
削減されたことで、どういった効果があるのかについても記載する。

■施設における課題とは

限られた人員でのサービス提供の為、スタッフの疲労が見受けられ、また、サービスの維持向上にも陰りが見られる。
現在、新たなスタッフの募集も行っているが、成果が出ておらず、採用と同時にAIの活用によるサービスの提供を検討する時期にあるのではないか。

■導入のスケジュールとフローチャート

1. 1月～4月：ヒアリング・課題抽出・機器の調査・メーカーcontact
2. 5月～6月：情報収集・導入申請※・メーカーafterフォロー
3. 9月～11月：導入・搬入・導入計画書見直し・メーカー事前レクチャ
4. 12月以降：活用事例・評価・検証

第1段階（PBL①）

第１段階（PBL①）回答編

～課題解決の為のAI選定～



リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（1）

【舞台】医療法人（千葉県）

運営施設・事業所：

- 介護老人保健施設
- 短期入所療養介護
- 通所リハビリテーション
- 居宅介護支援

職員数：100名

法人（施設及び事業所）における問題点について、同じ意識（＝危機感）を持つことが出来ていないのではないか。

問題点の例：

- 職員定着率の低さ
- 残業が多い
- 有休を消化できない
- 一定の職員しか知らない情報があり休むと様々な業務に支障が出る

立場は違っても、結果的に提供するサービスの質に影響が生じ、利用者はもちろん、自分たちにも負担が生じることを全スタッフで共有する必要がある。
それが出来ていないと、結果的に施設の運営に影響が生じる。
管理者を中心として、日常的にコミュニケーションを図り、一緒に考える時間を設けることが必要となる。

【状況】

これまでこの法人では、以下の状況があった。

- 職員定着率の低さ
- 残業が多い
- 有休を消化できない
- 一定の職員しか知らない情報があり休むと様々な業務に支障が出る

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（1）

【状況】
現在、法人内で特に負担となっているのは、③通所介護リハビリテーションの利用者の連絡帳への転記です。
一部のスタッフは、一人あたり２時間ほどたっぷりと時間を掛けて丁寧に書いている状況です。
管理者Aさんは「効率よく転記できれば他の業務もできるのに（泣）」といつも言葉を選んで指導をしていますが、パートＢさん，Ｃさんはまともに取り合おうとしません。

管理者Aさんが強く言うと、「辞める」との発言があり、対応に苦慮しています
Bさん，Cさんとも管理者Aさんよりも年上で、職歴も長いベテランです。

こうした状況の中、管理者Aさんより、AIの選定や導入手続きなど、一切を委任されたDさん。
どういったプロセスで進めたら良いでしょうか？
この施設の課題と解決の為に必要なAI機器の選定を行いましょう。

「ただでさえ、人手不足。無駄なことはやめてほしい（怒）」

「うちの施設で必要なAI機器って何？」

「これまでAI機器は入れていないし・・・ホントは面倒だ（泣）」

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（1）

下の ✔ について、グループワークで議論してみましょう。

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

1. この法人（特に通所介護リハビリテーション）の課題は何か	2. この法人（特に通所介護リハビリテーション）の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか	3. 業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか

コミュニケーションがどれだけ取れているか。管理者は責任者で責任を取る人で、私たちは利用者へのケア（直接・間接含む）だけ　との認識があるのではないか。

具体的に負担がある業務、時間を要する業務について導入を検討することが望ましい。参考までに・・・

継続的なコミュニケーションが求められるが、その際は、常日頃うよりベクトルを合わせて、「利用者（家族）の為、スタッフの為」、アプローチ方法は違っても、思いは同じであることを共有する必要がある。

- まもる君クラウド
- ナーシングネットプラスワン

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（1）

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（1）

下の ✔ について、グループワークで議論してみましょう。

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

3. 選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か	**4.** 導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

①～③まではこの段階で作成、④⑤については、振り返りの時期を設定まで。

⇒　導入後は四半期ごと（最初は６月末）など

1. **目標設定**（AI機器を導入するにあたってどういったことを成し遂げるか）⇒　業務効率化、これまでかかっていた時間を半減させる。
2. **情報収集**（導入予定のAIの活用事例等をリサーチ）⇒　特に時間を要していた業務時間を削減できるソフト（転記の部分）
3. **導入計画**（いつ購入・導入、機器使用のプラクティススケジュール、AI機器を活用するのは誰？等の計画策定）⇒　新年度より導入し、四半期ごとに振り返りと評価を行う、導入に際しての責任者は管理者Aさん等々
4. ※導入
5. ※運用

（※については、第２段階にて議論を予定）

【舞台】

株式会社（神奈川県）

- デイサービスを運営しており、機能訓練指導員のもと機能の維持・向上を図ることを目的に運営している。
- 従業員数25名。

【施設における課題】

※状況から考えられる課題を記載してください。

施設運営の為に新たな取り組みをする際、
プロジェクトとまではいかなくても一人で進めることは、
他のスタッフへの情報を共有し、理解を得るプロセスを経ていかなくては難しい。
これはせっかく実施のシステムを構築できても、
協力的でなかったり、無関心であったり（それぞれの業務があるのでそのことが理由になってしまう）して、
実装する場合も障壁となる。
スタッフが各々の業務に専門性を持ち、「餅は餅屋」となってしまい、
協力をどこまで得られるか？
また、新たな取り組みをおこなうにあたっては、
相談相手やブレーンとなるスタッフも必要となる。

果たしてそういった状況にあるか？

【状況】

管理者Aさんは、昨今の新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から様々な補助金や助成金があることから、
それらを活用して、施設のICT化を本格的に推進したいと考えている。
現場が今まで以上に多忙を極め、
特にこれまでの転記では限界を感じている。
スタッフがそれぞれ自身のタイミングで転記する場合、
自身が転記出来なかったり、情報を共有できないといったことがある。

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（2）

【状況】

- どのソフトが自事業所に合うのか、見当がつかない。
- 施設もICT化を本格的に推進したい。
- どうやって進めたらいいのか、職員の士気やサービスに影響があるかもしれないので不安だ。

こうした状況の中、管理者Aさんより、ソフトの選定や導入手続きなど、一切を委任されたBさん。

どういったプロセスで進めたら良いか？

この施設の課題と解決の為に必要なAI機器の選定を行いましょう。

ただでさえ人手不足！　無駄なことはやめてほしい（怒）

うちの施設で必要なソフトって何？

新しいものを取り入れることは不安だ・・・ホントは面倒だ（泣）

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（2）

下の ✔ について、グループワークで議論してみましょう。

【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

それぞれのスタッフが専門性を持って、日々業務に取り組み、サービスの提供を行っているが、施設の課題（業務が多い、サービス提供の内容にも影響が出るなど）についてどこまで関心を持っているか。
関心があったとしても、意見を言う、要望を出す　だけに止まっていないか？

情報の共有（特に現在、課題となっていることや問題点、先々起こりうるであろうリスクなど）とその対応策についての協議をスタッフ（参加するメンバー等は管理者の裁量）が必要ではないか。
汎用性を求めるか、価格か、使いやすさか、現在の課題から見ると、業務負担となっている部分が何かを見極める必要がある。

1. この事業所の課題は何か
2. この事業所の課題解決に向けた取り組みとしてどういった対応が考えられるか
3. 業務の効率化を図る上で、必要と思われるAI機器はどういったものがあるか

ワイズマンシステムSPケアカルテ

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（2）

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（2）

下の ✔ について、グループワークで議論してみましょう。
【事例】からディスカッション（課題抽出とAI機器選定）

それぞれのスタッフが専門性を持って、日々業務に取り組み、サービスの提供を行っているが、施設の課題（業務が多い、サービス提供の内容にも影響が出るなど）についてどこまで関心を持っているか。
関心があったとしても、意見を言う、要望を出す　だけに止まっていないか？
情報の共有（特に現在、課題となっていることや問題点、先々起こりうるであろうリスクなど）とその対応策についての協議をスタッフ（参加するメンバー等は管理者の裁量）が必要ではないか。
汎用性を求めるか、価格か、使いやすさか、現在の課題から見ると、業務負担となっている部分が何かを見極める必要がある。

選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か
導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う。（いつ頃？）

①～③まではこの段階で作成、④⑤については、振り返りの時期を設定まで。
⇒導入後、四半期をめどに適年で振り返りと評価の時間を設ける。自施設での活用事例を共有することで、スタッフが関心を持つことになれば、さらに良い。

目標設定（AI機器を導入するにあたってどういったことを成し遂げるか） ⇒　業務負担となっている部分の洗い出しと、振り返り時期の設定。	情報収集（導入予定のAIの活用事例等をリサーチ） ⇒　適所介護向けで、費用、フォロー体制、使用している介護ロボット等との連携が出来るかなどをリサーチして、メーカープレゼン、見積書の習得など。	導入計画（いつ購入・導入、機器使用のプラクティススケジュール、AI機器を　活用するのは誰？等の計画策定） ⇒例）4月～、その為には3カ月～6カ月前から、①②を行い、導入の責任者はAさん、実際の活用計画の策定や、スタッフへの説明はBさんと役割を決めて実施する。
※導入		※運用

（※については、第2段階にて議論を予定）

第1段階（PBL①）

第１段階（PBL①）演習編

～AI導入計画案作成～



リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）

【舞台】株式会社（神奈川県）

デイサービスを運営しており、機能訓練指導員のもと機能の維持・向上を図ることを目的に運営している。
従業員数25名。

【施設における課題】

※状況から考えられる課題を記載してください。

（空白の記入欄）

【状況】

管理者Aさんは、昨今の新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から様々な補助金や助成金があることから、それらを活用して、施設のICT化を本格的に推進したいと考えている。

現場が今まで以上に多忙を極め、特にこれまでの転記では限界を感じている。

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）

【状況】

どのソフトが自事業所に合うのか、見当がつかない。

施設もICT化を本格的に推進したい。

どうやって進めたらいいのか、職員の士気やサービスに影響があるかもしれないので不安だ。

こうした状況の中、管理者Aさんより、ソフトの選定や導入手続きなど、一切を委任されたBさん。

どういったプロセスで進めたら良いか？

この施設の課題と解決の為に必要なAI機器の選定を行いましょう。

ただでさえ人手不足！　無駄なことはやめてほしい（怒）

うちの施設で必要なソフトって何？

新しいものを取り入れることは不安だ・・・ホントは面倒だ（泣）

第1段階（PBL①）演習編～AI導入計画案作成～

【計画書（案）】

計画書の目的を明確にする。

現在の施設における課題を具体的に記載する。

導入のスケジュールとワークフロー

企画及び計画の内容を具体的に簡潔に記載をし、導入に向けた具体的な動きを記載する。（機器の写真や説明なども）

導入するメリット及び効果を具体的に記載する。

資料は見やすく、説明は簡潔に、アピールポイントは明確に、聞き手の立場に立った話し方、伝え方を心掛ける。

Q&Aの準備を行う。特に、【3】と【5】については質問が予想されるので、想定問答の作成を行う。

リカレント教育プログラム

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）

（１）状況説明

今までの報告を受け、法人本部より、
現場において活用する介護ソフト
（記録や連絡、他機種との連携などが出来る）
の導入を検討し、進めてほしいとの指示があった。
Bさんは、管理者Aさんより
介護ソフト導入（及び活用）の為の企画書を作成し、
提案してほしいと依頼があった。
次の経営会議において、
代表を含めて経営陣との会議で企画を提案することとなった。
Bさん（Aさんの指導のもと）は、
企画書を作成して、経営会議で提案することとなった。

第1段階（PBL①）演習編 ～AI導入計画案作成～

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）
◆作業手順

1	2	3
01 **【手順１】計画書を作成するにあたり、機器情報を整理する。**	02 **【手順２】整理した情報をまとめ、計画書を作成。**	03 **【手順３】作成した計画書の内容を経営陣へ説明をして、導入の了承を得る。**

リカレント教育プログラム

PBL教材　事例把握（１）

◆参考情報

企画書とは？

企画書は、新しいビジネスプロジェクト、イベント、製品、サービス、キャンペーンなどの計画を伝えるための文書です。

自分のアイデアを他の人に説明する為のものです。

1. Ⅰ　企画書の構成
2. Ⅱ　企画書作成、発表する上での注意事項

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）
Ⅰ．企画書の構成

・一般的な企画書の構成は以下の項目で構成されます。項目は必要に応じて変更可能です。

1	2	3
現状分析 企画アイディアを実際に裏付けるために行います。現状の問題点と市場の動向といった外部環境、社内のリソースといった内部環境などの因果関係を整理し、説明します。	企画の目的と全体像 現状分析によってわかった問題点の中から課題を抽出します。課題とその課題に対してどのように解決するのか、目指す方向を示します。企画の目的とゴールを明らかにすることで、企画を実施すべきかどうか検討できます。	企画の具体的な内容（誰に、どうやって） 企画の目的を踏まえ、どのようなターゲットに何を使って、どういう方法を使うのかということを明らかにします。
4	**5**	
スケジュール 導入に向けて、行うことを明確にし、スケジューリングする必要があります。	収支計画 導入費用、ランニングコスト、またそれがどのように回収できるか明らかにします。	

第1段階（PBL①）演習編 ～AI導入計画案作成～

計画書作成

Ⅱ．計画書作成、発表する上での注意事項

計画書の目的を明確にする	課題を把握する
ワークフローを明確にする	計画内容の裏付けを取り、信頼性の高い資料にする
採用するメリットを明確にする	資料は見やすくする
説明はなるべく簡潔に	アピールポイントを明確に
発表は相手に伝わるように説明する	Q&Aに対応する準備

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）

◆参考URL

企画書作成のポイント|種類・書き方、テンプレートも紹介:nocoセールス

企画書の目的や作成のポイントを解説

https://nocoinc.co.jp/media/manual/proposal-template

企画書って何を書くの...？企画書に書くべき5つの要素:Urumo

企画書に書くべき5つの要素と、相手を「納得させる」企画書を書くための簡単な方法

https://www.innovation.co.jp/urumo/project-proposal/

第1段階（PBL①）演習編 ～AI導入計画案作成～

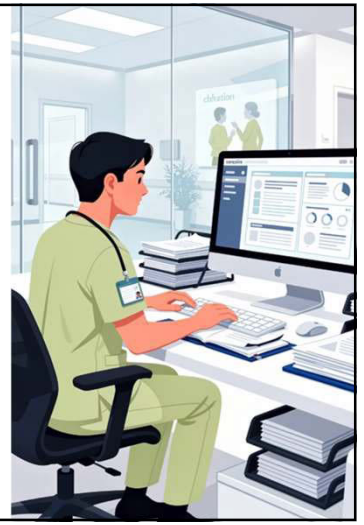
発表シート

①施設名	②発表者	③構成メンバー
（空欄）	（空欄）	（空欄）

第1段階（PBL①）演習編 ～AI導入計画案作成～

計画書　①

実施概要 （空欄）	サービス概要① ■AI機器（先端機器）導入の背景 （空欄）
ハードウェア • □ • □ • □	コンテンツ（用途/画面/操作説明） （空欄）
価格 （空欄）	利用ターゲット （空欄）
サービス概要 • □	



第1段階（PBL①）演習編 ～AI導入計画案作成～

計画書　①（効果・課題）

効果

導入にあたり

- 期待される効果：（空欄）
- 従来の業務からの変化点：（空欄）

- □
- □
- □
- □
- □

- 事前に準備が必要な事：（空欄）

課題

- 課題：（空欄）

第1段階（PBL①）演習編 ～AI導入計画案作成～

まとめ

- □
- □
- □

参考URL

（空欄）

第1段階（PBL①）

第１段階（PBL①）回答編

～AI導入計画案作成（【参照】企画書付き）～



リカレント教育プログラム

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）

【舞台】株式会社（神奈川県）①デイサービスを運営しており、機能訓練指導員のもと機能の維持・向上を図ることを目的に運営している。従業員数25名。

【施設における課題】

※状況から考えられる課題を記載してください。

事例を参照として、当施設では、補助金や助成金を活用して、本格的に施設のICT化へ舵をきることとなった。機器についても選定したが、課題としては、以下の通り。

- 導入（及び活用）の為の費用捻出
- スタッフの理解と協力体制があるか（現場に限らず、特に現場が導入を要望した際は、経営層の理解や協力体制ということになる）
- 導入（及び活用）の為の計画書を作成出来るか。
- ③の中で、誰が、どの利用者に、どの場面で活用し、誰がそれを評価するか、いつ振り返りや評価を行うのか、事例をもとに全スタッフへ情報を共有するのかについても決まっていない・・・

【状況】管理者Aさんは、昨今の新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から様々な補助金や助成金があることから、それらを活用して、施設のICT化を本格的に推進したいと考えている。現場が今まで以上に多忙を極め、特にこれまでの転記では限界を感じている。

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）

【状況】

- どのソフトが自事業所に合うのか、見当がつかない。
- 施設もICT化を本格的に推進したい。
- どうやって進めたらいいのか、職員の士気やサービスに影響があるかもしれないので不安だ。

こうした状況の中、管理者Aさんより、ソフトの選定や導入手続きなど、一切を委任されたBさん。どういったプロセスで進めたら良いか？

この施設の課題と解決の為に必要なAI機器の選定を行いましょう。

ただでさえ人手不足！　無駄なことはやめてほしい（怒）

うちの施設で必要なソフトって何？

新しいものを取り入れることは不安だ・・・ホントは面倒だ（泣）

第1段階（PBL①）回答編 ～AI導入計画案作成～

【計画書（案）】

- 計画書の目的を明確にする。
- 現在の施設における課題を具体的に記載する。
- 導入のスケジュールとワークフロー
- 企画及び計画の内容を具体的に簡潔に記載をし、導入に向けた具体的な動きを記載する。（機器の写真や説明なども）
- 導入するメリット及び効果を具体的に記載する。

資料は見やすく、説明は簡潔に、アピールポイントは明確に、聞き手の立場に立った話し方、伝え方を心掛ける。

<

Q＆Aの準備を行う。特に、【3】と【5】については質問が予想されるので、想定問答の作成を行う。

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）
（１）状況説明

今までの報告を受け、法人本部より、現場において活用する介護ソフト（記録や連絡、他機種との連携などが出来る）の導入を検討し、進めてほしいとの指示がありました。

Bさんは、管理者Aさんより**介護ソフト導入（及び活用）の為の企画書を作成し、提案してほしい**と依頼がありました。

次の経営会議において、代表を含めた経営陣との会議で企画を提案することとなりました。

Bさん（Aさんの指導のもと）は、**企画書を作成して、経営会議で提案すること**となりました。

第1段階（PBL①）回答編 ～AI導入計画案作成～

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（１）

◆作業手順

1. 計画書を作成するにあたり、機器情報を整理する。
2. 整理した情報をまとめ、計画書を作成。
3. 作成した計画書の内容を経営陣へ説明をして、導入の了承を得る。

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（1）

◆参考情報

企画書とは？

企画書は、新しいビジネスプロジェクト、イベント、製品、サービス、キャンペーンなどの計画を伝えるための文書で、自分のアイデアを他の人に説明する為のもの。

1．Ⅰ　企画書の構成
2．Ⅱ　企画書作成、発表する上での注意事項

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（1）

Ⅰ．企画書の構成

一般的な企画書の構成は以下のような項目です。項目は必要に応じて変更します。

現状分析

企画アイディアを実際に裏付けるために行います。現状の問題点と市場の動向といった外部環境、社内のリソースといった内部環境などの因果関係を整理し、説明します。

企画の目的と全体像

現状分析によってわかった問題点の中から課題を抽出します。課題とその課題に対してどのように解決するのか、目指す方向を示します。企画の目的とゴールを明らかにすることで、企画を実施するべきかどうか検討できます。

企画の具体的な内容（誰に、どうやって）

企画の目的を踏まえ、どのようなターゲットに何を使って、どういう方法を使うのかということを明らかにします。

スケジュール

導入に向けて、行うことを明確にし、スケジューリングする必要があります。

収支計画

導入費用、ランニングコスト、またそれがどのように回収できるか明らかにします。

計画書作成
Ⅱ．計画書作成、発表する上での注意事項

計画書の目的を明確にする	課題を把握する
ワークフローを明確にする	計画内容の裏付けを取り、信頼性の高い資料にする
採用するメリットを明確にする	資料は見やすくする
説明はなるべく簡潔に	アピールポイントを明確にする
発表は相手に伝わるように説明する	Q&Aに対応する準備

リカレント教育プログラム　PBL教材　事例把握（1）

◆参考URL

企画書作成のポイント|種類・書き方、テンプレートも紹介 :nocoセールス
企画書の目的や作成のポイントを解説
https://nocoinc.co.jp/media/manual/proposal-template

企画書って何を書くの…？企画書に書くべき5つの要素 :Urumo
企画書に書くべき5つの要素と、相手を「納得させる」企画書を書くための簡単な方法
https://www.innovation.co.jp/urumo/project-proposal/

第1段階（PBL①）回答編 ～AI導入計画案作成～

発表シート

①施設名 株式会社〇〇〇〇　デイサービス××	②発表者 介護主任　B	③構成メンバー 介護主任　B 管理者 A 理学療法士　C 以上3名

計画書 ①

実施概要

サービス概要①

- AI機器（先端機器）導入の背景
- ハードウェア

介護ソフト導入を検討している。

背景としては、「紙」での記録では多職種が記載出来ない、共有できない為、質の高いサービスが提供出来ない。
介護ソフトの導入を検討したい。

具体的には、ケアコラボ（
https://page.carecollabo.jp/）

- 利用ターゲット
- コンテンツ（用途/画面/操作説明）

スタッフ及び利用者（家族）

https://page.carecollabo.jp/about/

- サービス概要
- 価格

デイサービス（機能訓練型）

職員一人当たり968円（税込）／月額

25名の場合は、24,200円（税込）／月額

計画書　①

効果

- 期待される効果
- 従来の業務からの変化点

多職種間で情報を共有することができ、記録についてタイムリーにコメントが記せます。
バイタル、ケアプラン、生活リズムなど、利用者情報の集約が可能となり、質の高いサービス提供に役立ちます。
これまでの「紙」記録から「電子」記録となり、記録用紙がかさばることもなくなります。
過去のデータ確認も、これまでは倉庫等、保管をしていた箇所への確認が必要で効率が良くありませんでしたが、その点が解消できます。
多職種間の連携が図られ、施設内の信頼関係、人間関係において良い効果が期待できます。

課題

- 課題
- 事前に準備が必要な事

初めて活用するスタッフの抵抗感や、導入当初の不慣れが課題として考えられます。
スタッフへの意識付けが重要です。

補助金や助成金を活用して仮に導入ができたとしても、スタッフが積極的に活用しなければ意味がありません。
また、導入において失敗しないため、メーカー側より、フォロー体制やレクチャー（オンライン等含む）の体制があるかについても確認をします。

第1段階（PBL①）回答編 ～AI導入計画案作成～

まとめ

介護ソフトの導入と導入を通じて達成したい目標についても検討をし、優先順位（費用やサポート体制、汎用性、スタッフの適正等）を鑑みて、当法人施設の理念でもある

1. すべてをご利用者様の視点で
2. 質の高いサービスを提供の為に連携と協力を強固にする　を念頭に、

ケアコラボの導入と活用を通じて、業務効率化、生産性向上を目指し、職員がこれまで以上に、質の高いサービスを提供できる環境づくりを目指したいと思います。

30	30
業務時間（間接業務）の削減	残業時間の削減
月（一人あたり80分）	月（一人あたり80分）

参考URL

https://page.carecollabo.jp/

参照資料

（参照）【企画書】

専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推
進事業

【企画書（案）】

■企画書を作成、提出する目的

■施設における課題とは

（具体的に記載）

例）機器の導入（及び活用）を行うことで、施設における質の高いサービス提供につながり、スタッフの負担軽減や利用者満足度向上、さらにはご家族からの信頼関係強化にも繋がるなど。
尚、実際にスタッフの負担軽減はどのサービスやどの場面において、どれ位の業務量削減に至るか。削減されたことで、どういった効果（例：利用者及びスタッフ間の会話を増やしたなど）があるのかについても記載する。

（具体的に記載）

例）限られた人員でのサービス提供の為、スタッフの疲労が見受けられ、また、サービスの維持向上にも陰りが見られる。
現在、新たなスタッフの募集も行っているが、成果が出ておらず、採用と同時にAIの活用によるサービスの提供を検討する時期にあるのではないか。
仮に人的な課題（確保や育成、定着におけるものなど）であれば、その原因についても分析を行う必要がある。

企画書（案）

■導入のスケジュールとフローチャート

（スケジュール例）

調査、企画（計画書）、導入、活用、振り返りのスケジュールを時系列の形で、記載します。

※補助金の活用を想定し、９月以降導入とした場合：

- **1月～4月**ヒアリング・課題抽出→機器の調査
- **5月～6月**情報収集→導入申請※
- **9月～11月**導入・搬入→導入計画書見直し
- **12月以降**活用事例→評価・検証

メーカーコンタクト――――――――――――――メーカーアフターフォロー

メーカー事前レクチャー

【企画書（案）】

■企画の内容について

どういった機器を	いつ	04
誰が（複数が望ましい）	何の目的の為に	想定される効果（目標）
どうしてこの機器なのか		

について分かりやすく記載をする。

※③については、法人や施設内スタッフへのレクチャーや指導のほか、メーカーとの連絡調整係等を想定している。

【企画書（案）】

■導入するメリット及び効果

（具体的に記載）

導入前においては、メリットや効果が不明確な場合も想定されます。そのため、以下の内容を具体的に記載してください。

- 想定される効果を明確にする。
- メーカーから提供される情報（活用事例など）を可能な限り収集し、提示する。
- その情報をもとに、自施設のサービスとの合致性や、目標との相違がないかを検証した内容を記載する。

実際に機器を使用する中で、当初の想定を超えた効果が表れる可能性もあります。こうした経験値は、将来的に別の機器を導入する際の貴重な参考資料となります。そのため、具体的な事例として記録し、蓄積しておくことを推奨します。

【企画書（案）】

■価格

価格は、必要なオプションも加えた金額を記載します。

また、見積書（有効期限に留意）を添付して作成することが望ましいです。

さらに、ラーニングコスト分や、リース、レンタルの場合、月額の金額（一括購入との比較なども含めて）も記載します。

補助金や助成金※の活用で購入するケースも見受けられるため、活用できる補助金や助成金の情報も加えて記載してください。

※補助金や助成金は、単年度で交付されるケースが多いです。

リースやレンタルについては、12カ月以上の支払いが生じる場合は十分に留意してください。

【企画書（案）】

■機器導入によって想定されるデメリットや課題

（具体的に記載）

導入のメリットや効果にばかり目が行きがちです。

しかし、導入後のデメリットや課題も想定し、そのうえで、導入した方が質の高いサービスを提供できる点や、スタッフの負担軽減に役立つといった点についても記載する必要があります。

記載例としては、数字や具体的な事象を入れると良いでしょう。

例：

- 機器を効果的に活用できるようになるまでは、スタッフへのトレーニング（全員が〇時間）や、一定時間を要する。
- 導入した機器に不慣れなスタッフや、抵抗のあるスタッフへの対応として、
  - 週１回程度の勉強会
  - メーカーのデモを２か月に１回程度

など

【企画書（案）】

■導入によって想定される従来の業務からの変化（特に改善点）

（具体的に記載）

■事前の準備等

（具体的に記載）

例：

施設内のスタッフは通常は〇〇名で利用者のケアを行っています。

しかし、夜間の時間帯では、スタッフの数にも限りがあり、

不慣れなスタッフが担当した際は、他のスタッフへの負担も大きくなります。

また、夜間のオムツ介助の際、他の利用者の状況なども分からないこともあり、不安が伴います。

例：

機器を使用する場面を想定し、事前にシュミレーションを行っておく。

（操作方法の確認や運用方法、故障時の時の対応など）

【企画書（案）】

■まとめ

- 課題
- 解決の為に必要なツール
- 機器の調査
- 導入計画
- 導入
- 評価と検証

（具体的に記載）といった形にして企画を作成します。

導入以降については、想定や目標として記載をします。

実際に活用をしてみないと「分からない、書けない」との思いもあるかもしれませんが、

実際に使用すれば、法人や施設の理念を体現できるといった熱意を伝えることも必要です。

STEP 5

企画書・計画書の再考

発表・講評で得たフィードバックをもとに、企画書・計画書をブラッシュアップします。他者の視点を取り入れることで、より実現可能で説得力のある内容へと仕上げましょう。

フィードバックの整理

発表・講評で受けたコメントや指摘事項を整理し、修正が必要な箇所を明確にします。

内容の修正・充実化

指摘を踏まえ、課題の捉え直しや解決策の具体化、コスト試算の精緻化などを行い内容をさらに深めます。

最終版の完成

修正・充実化した企画書・計画書を最終版としてまとめ、実際の現場導入提案として活用できる資料に仕上げます。

このPBL研修を通じて得られた学びと成果物は、多国籍共生介護現場でのAI機器導入推進に直接活用できます。現場の課題解決に向けて、ぜひ積極的に活用してください。



PBL教材①-1
バス編

PBL教材（回答編）

事例把握 (1) 状況説明 (2) 事例把握シート作成

Step 1 事例把握	Step 2 事例調査
Step 3 企画書・計画書作成	Step 4 発表・講評
Step 5 企画書・計画書再考	



STEP 1 ／ 事例把握

事例把握

作業手順の設計

（1）状況説明

- 目的・背景の設定
- 現在の状況設定
- 現在抱えている課題の抽出

（2）事例把握シート作成

- 事例から福祉現場における課題を直視する。
- 課題解決の為の作業や手法について検討する。
- その目的と背景についても理解する。
- 設定された状況から課題を抽出する。

課題解決の為のツールとしてAI機器を検討しており、導入及び活用事例について把握する。

STEP 1 ／ （1）状況説明 ／ 事例把握

作業手順

プロセス	内容
1. 課題の設定	現在起きている現象（特に良くない）及び将来にわたり起こりうるもの
2. 原因分析	何が原因で課題が発生しているのか、現状と理想（あるべき姿）のギャップを分析する。
3. 解決策の検討	考えられる解決策を具体的に列挙し、優先順位をつける。
4. 解決策の実行	優先順位が高いものから実行し、効果検証をして効果があれば継続、なければ他の解決策を模索する。

舞台、状況を踏まえた上で、施設の課題について、グループワークを通じて、以下について進める。

DO　HOW　WHY　WHERE　WHAT



STEP 1 ／（1）状況説明 ／事例把握

目的・背景の設定

【背景】
昨今の福祉現場においては、少子高齢化社会、就業人口減少といった状況の影響を強く受け、サービスを提供するスタッフに限りがあるばかりでなく、今後はスタッフそのものの高齢化などの問題も予見される。
現場にて従事するスタッフへの負担軽減、利用者への質の高いサービスの維持・向上を図るうえで、ロボットやICTといったデジタル機器の導入・活用が求められる。
一方で、受け入れ側においても、抵抗なく、無理なく、無駄なく導入や活用が出来るかといった点が課題となっており、事業所、施設、法人全体で取り組む問題として捉える必要がある。
今回は、施設における様々な先端機器によるスタッフの負担軽減と利用者の満足度の向上、スタッフ、利用者への「安心・安全」を提供するといったことを念頭に、さらなるサービスの質向上を図る為、「入浴支援機器」の導入・活用を検討している。

【目的】
・福祉現場にて従事するスタッフの負担軽減
・利用者への質の高いサービスの維持・向上を図る。

STEP 1 ／（1）状況説明 ／事例把握

目的・背景の設定

グループで情報共有と理解をはかるため、スタッフ個人が抱えている課題を抽出し、話し合い納得して介護ロボットを活用する環境を生み出す方策を探るにはどうしたら良いか。

職員の現状を把握して、状況把握シートを作成し、管理者がまとめて発表する。

原因	背景
目的	あるべき姿

STEP 1 ／（1）状況説明 ／事例把握

状況(1)

【目的】

施設においてスタッフが利用者へサービスを提供するにあたって、身体的・心理的負担が生じており、負担を軽減し、利用者の満足度を向上させる為に介護ロボットの導入を検討している。特に負担が大きいとされる入浴時における支援機器の導入を行いたく導入候補となる機器の調査、選定を行い、企画提案を図りたい。

【背景】

利用者へ提供するサービスの質を上げるべく、全スタッフでアイデアを出し合い、懸命に取り組んでいるものの、サービスを提供する上での課題（特に入浴介助における負担増）がある。スタッフの経験値や体力なども影響する為、質の高いサービスを維持・向上させる為に、「入浴支援機器」を活用したいと考えている。

【舞台】

社会福祉法人（滋賀県）
特別養護老人ホーム（１人部屋5室、２人部屋7室、４人部屋29室定員135名）のほか、短期入所生活介護、通所介護、訪問介護を併設



STEP 1 ／（1）状況説明 ／事例把握 ／状況設定

状況(2)

管理者のあなたは、入浴支援に活用できるデジタル機器の導入を検討している。

これまで施設ではロボットを導入したことがない為、まずは導入を検討する機器の調査（実際に活用をしている事例をインターネット等で調べてグループディスカッションを行う）を予定している。

STEP 1 ／（1）状況説明 ／事例把握 ／状況設定

介護施設において、入浴介助は負担のかかる業務の１つ

- 生活の質が向上
- 良眠効果
- 清潔を保てる
- 身体の状態が分かる

主な介助の種類

- 食事介助
- 排泄介助
- 入浴介助
- 歩行介助
- 移乗介助
- 更衣介助
- 寝返り介助

STEP 1 ／（1）状況説明 ／事例把握 ／課題抽出

福祉現場における課題と解決に向けて

【現状】
入浴介助を担当するスタッフの経験や能力によって、サービスの内容に違いが生じている。利用者に対して安心・安全なサービスの提供が十分とは言えず、スタッフへの負担（身体的・精神的）も大きい。

【あるべき姿】
利用者の安心・安全の確保と、スタッフに対しても負担軽減を図り、これまで課題となっていた腰痛等の理由での休職や離職をなくしたい。

アクション項目1
計画を実行する（入浴介助の活性化・充実やスタッフの負担軽減など）

アクション項目2
結果を振り返り、事業所へフィードバックする

STEP 1 ／（1）状況説明 ／事例把握 ／課題抽出

入浴介助の課題と解決の方向性

入浴介助は、体を清潔に保つことと同時に、血行をよくし、疾患を悪化させないといった効果がある。一方で温度・湿度の高い中での身体的負担、安全面への心理的負担があり、負荷がかかるサービスの１つと言える。

【出典】左）ポストセブン 右）京都新聞

1	2	3
あるべき姿	利用者の満足度を向上させる	入浴介助を充実させる
4	5	
入浴介助の負担を軽減する	入浴支援ロボット導入・活用	

STEP 1 ／（2）事例把握シート作成 ／事例把握

事例把握シート作成

（2）事例把握シート作成：選定した課題について関連資料・WEB検索をして事例把握シートを作成してください

- 今回取り上げられた"施設"の「課題」は何か？ ⇒ 入浴介助の場面？
- 課題解決に向けてどういった対応や取り組みが考えられるか。⇒ 新たな取り組み？
- この場面において必要と思われるAI機器はどういったものがあるか。選定したＡＩを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か。⇒ 使用方法の理解や使用する人の選定？

以下の①②③（Step１～４）については振り返りの時期を設定する。

1. 目標設定（AI機器を導入するにあたってどういったことを成し遂げるか）
2. 情報収集（導入予定のAIの活用事例等をリサーチ）
3. 導入計画（いつ購入・導入、機器使用のプラクティススケジュール、AI機器を活用するのは誰？等の計画策定）
4. ※導入
5. ※運用
6. ※導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う（いつ頃？）

（※については次の段階において議論を予定）



STEP 1 ／ (2) 事例把握シート作成 ／ 導入候補サービス①

導入候補サービス①「アラエル」：酒井医療株式会社

アラエルは、絶妙な位置に配置されたシャワーノズルで、全身くまなく洗うことが出来、洗いたいところ、洗うべきところにあたる位置や角度を導き出している。身体の隅々までしっかりと洗える為、費やす時間や労力を大幅にカット出来、介助する側の負担軽減につながる。長さ1750mm×幅1130mmというコンパクトなシャワードーム。中の空間は広々としていて、まるでミニバンのような設計となっている。小さな浴室でもゆったり快適に使うことが出来る。



STEP 1 ／ (2) 事例把握シート作成 ／ 導入候補サービス②

導入候補サービス②「ヌクティ」：株式会社アマノ

『ヌクティ A99A/A99AS』は、入浴する方の身体状況にあわせて入浴スタイルを選べる座位入浴装置であり、2m×2mの省スペース浴室に設置可能である。1台で3パターンの入浴スタイルに対応している。

3つの入浴スタイル:

- 歩いて入浴する「自立入浴」
- スライドターンテーブルを使った「サポート入浴」
- シャワーチェアで入浴する「シャワーチェア入浴」

バスタブは、毎回新しいお湯で入る「新湯タイプ」と、お湯をろ過して再利用する「ろ過タイプ」から選べる。



STEP 1 ／ (2) 事例把握シート作成 ／ 導入候補サービス③

導入候補サービス③「ピュアット」：株式会社金星

ウルトラファインバブルという目に見えない程の小さい泡が、ボディソープや擦り洗い不要で、お湯に浸かるだけで身体の汚れを落とす。

擦り洗いの必要がなくなるので、利用者の肌にとても優しい洗身を提供し、職員様の介助負担や時間も大きく減らすことが出来る。



STEP 1 ／ 演習

それでは、事例把握について演習をしてみましょう

課題抽出（個人）15分



STEP 1／演習／課題

（1）現場での課題（回答例）

考えられる施設内の課題について記載をしてください。

課題の背景

【人的課題】現在はスタッフは充足しているが、スタッフの経験値や意識の違いがあり、提供するサービスにおいても差が生じている。
今後、２０２５年・２０４０年問題と言われている社会情勢の中、少子高齢化が増進し、サービスを提供するスタッフの確保（及び育成）が難しくなるのではないかと懸念している。

【環境課題】外的環境…医療介護費の増大がもたらされる影響として、マイナス改定なども想定されており、現状のサービスを提供することが難しくなるのではないかとの懸念がある。
内的課題…サービスを提供するスタッフの確保（及び育成・定着支援）について十分に出来ない可能性がある。特に管理職候補の養成が出来ていない。

【その他】現在のスタッフ間の良好な関係づくり、多職種連携、スタッフの能力格差の是正、事業規模拡大（及び縮小）など…

回答

【課題】施設における入浴介助において、スタッフから負担が大きくデジタル機器の導入を検討してほしい旨、意見が出された。
当施設では自身で入浴、洗身が出来ない利用者もおり、入浴サポートを機械・装置を使用したいと思っている。導入により、スタッフの身体的負担の軽減や介助中の介護事故への不安（精神的負担）の軽減が図れるのではないか。
利用者もスタッフに対する介助への不安が軽減される。
入浴介助は重労働であるといった認識を払しょくし、機器を使用することでサービスの提供がスムーズになるという意識を有し、積極的に活用してもらうことを想定している。



STEP 1／演習／課題共有（グループ）２０分

（2）課題の共有（回答例）

職員から聞き取りした施設内の課題について重要な内容を集約して記載してください。

課題（1）：（施設における）スタッフ確保と育成

課題（2）：（将来を見越した）体制作りが出来ていない

課題（3）：（施設における）利用者の確保とサービスの質向上

STEP 1／演習／課題共有（グループ）２０分

（2）課題の選択（回答例）

職員から聞き取りした施設内の課題について特に重要な内容について３つまで記載をしてください。

→ 課題（1）：（施設における）スタッフ確保と育成

現場スタッフと管理業務を行えるスタッフのバランスが問題。また、夜勤や特定の時間において稼働できるスタッフが不足するなどの課題がある。

→ 課題（2）：（将来を見越した）体制作りが出来ていない

今後の事業拡大を見越してスタッフの充足が求められるが、現状のサービスを提供する数は足りているが、将来を見越した採用には不安がある。

→ 課題（3）：（施設における）利用者の確保とサービスの質向上

スタッフの数は充足しているが、スキルや経験の違いが提供するサービスの内容に影響（良くも悪くも）を与えている。施設数が多く、選ばれる事業所になる為には質の高いサービスを提供できる環境が必要であるが十分とは言えない。





STEP 1／演習／課題解決（グループ）２０分

（3-2）課題の解決案
（資料・WEB参照：IT先端機器活用）

３つの課題についてそれぞれ関連資料の参照やWEB検索などをして解決案を記載をしてください。

課題（1）：（施設における）スタッフ確保と育成
現場スタッフと管理業務を行えるスタッフのバランスが問題。また、夜勤や特定の時間において稼働できるスタッフが不足するなどの課題がある。
解決案（1）：
（ここに解決案を記載）

STEP 1 ／ 演習 ／ 課題解決（グループ）２０分

（3-2）課題の解決案（資料・WEB参照：IT先端機器活用）

３つの課題についてそれぞれ関連資料の参照やWEB検索などをして解決案を記載をしてください。

課題（2）：（将来を見越した）体制作りが出来ていない
今後の事業拡大を見越してスタッフの充足が求められるが、現状のサービスを提供する数は足りているが、将来を見越した採用には不安がある。

解決案（2）：
（ここに解決案を記載）

STEP 1 ／ 演習 ／ 課題解決（グループ）２０分

（3-2）課題の解決案（資料・WEB参照：IT先端機器活用）

３つの課題についてそれぞれ関連資料の参照やWEB検索などをして解決案を記載をしてください。

課題（3）：（施設における）利用者の確保とサービスの質向上
スタッフの数は充足しているが、スキルや経験の違いが提供するサービスの内容に影響（良くも悪くも）を与えている。施設数が多く、選ばれる事業所になる為には質の高いサービスを提供できる環境が必要であるが十分とは言えない。

解決案（3）：
（ここに解決案を記載）

STEP 1／テスト

Yes,Noで答える単元テスト6問

問題	Yes	No
①現在、日本では少子高齢化社会と言われており、高齢者を支える介護職が足りていないと言われている。		
②介護職が辞めた理由として上位の理由としては、「人間関係」が挙げられる。		
③今後、日本においては介護人材がますます足りなくなる？		
④介護現場における働き手が足りなくなることが想定された場合、ツールの１つとして、ロボットやICTといったデジタル機器の活用は有効である？		
⑤介護現場における課題については、一人で抱え込まず、管理者やスタッフと共有して、解決することが望ましい。		
⑥課題解決に向けては、現状を把握して、「あるべき姿」や「目指すべき姿」を想定して取り組む必要があり、やみくもに自身の意思を推し進めることは望ましいことではない。		

●をYes,Noのどちらかの枠内へ移動させてください。

STEP 1／テスト

単元テスト ― 解答と解説

問題	解答と解説
①現在、日本では少子高齢化社会と言われており、高齢者を支える介護職が足りていないと言われている。	**Yes**　統計的に見ると足りていない。さらに今後もこの傾向は続くと思われる。
②介護職が辞めた理由として上位の理由としては、「人間関係」が挙げられる。	**Yes**　統計的な退職理由としては、「人間関係」が上位。他には所属している法人や事業所の理念や方針についていけないなどが挙げられる。
③今後、日本においては介護人材がますます足りなくなる？	**Yes**　少子高齢化社会が進み、働き手の数にも限りが出てくる。その為に介護の担い手が足りなくなることが想定される。
④介護現場における働き手が足りなくなることが想定された場合、ツールの１つとして、ロボットやICTといったデジタル機器の活用は有効である？	**Yes**　人材不足が心配され、これまで通りのサービスを提供できなくなる可能性がある。解決策の１つとして、DX化が考えられるが、ロボットやICTの活用は有効なツールと言える。
⑤介護現場における課題については、一人で抱え込まず、管理者やスタッフと共有して、解決することが望ましい。	**Yes**　現場における課題は、施設や事業所の利用者へ直結することでもあり、出来る限り共有して、解決策を検討しなくてはいけない。
⑥課題解決に向けては、現状を把握して、「あるべき姿」や「目指すべき姿」を想定して取り組む必要があり、やみくもに自身の意思を推し進めることは望ましいことではない。	**Yes**　課題解決は一人は難しいこともあり、周囲のスタッフや管理者と相談し、進めていくことが望ましい。ノウハウを蓄積することで今後も同様の課題があった際、対応に役立つ。

PBL教材（回答編）

事例調査

(1) 状況説明 (2) 事例調査シート作成

Step 1

Step 2: 事例調査

Step 3

Step 4

Step 5

・導入候補サービス①〜③までの機器について、インターネットで調べる。

・グループディスカッションして機器の活用事例を調べる。

・施設における課題（例：レクリエーションのときにネタがない、スタッフへ負担が掛かっている等々）について、解決に役立つ機器はどれか？という観点から候補について調べる。

STEP 2 ／ 演習 ／ 課題共有（グループ） ２０分

（1）課題の選定

進め方:

1. 先ほどの3つの課題から、導入可能なサービス1つを選定してください。
2. 選定理由を記載してください。



STEP 2 ／ 演習 ／ 回答

課題の選定と解決策（記載例）

課題と解決策

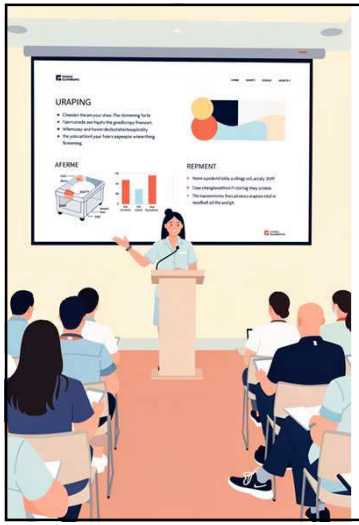
【課題】（入浴支援時において）筋力低下した利用者へ、入浴介助を行うにあたり転倒リスクがあり、抑制することが求められる。一方で、介護者への腰痛などの身体的、さらには心理的負担も大きい。

【選定したサービス】①〜③を候補として、それぞれ機種の調査、活用事例などから、選定を行う。

解決策

【解決策】特に入浴支援時においてスタッフへの身体的・心理的負担が生じることもあり、解決策の１つとして、入浴支援機器の導入及び活用が検討される。

誰が（スタッフ）、誰に（利用者）、どの場面で使用するかについて事前に想定する必要がある。また、導入及び活用においては、十分な検討が必要である。



STEP 2 ／ 演習 ／ 回答

選定した機種と選定理由

【選定した機種】「アラエル」（酒井医療株式会社）

【選定理由】ADLの低下により入浴を怖がる利用者（Aさん、Bさん）が居る。提供するサービスの中でも特に重要とされる入浴に対して、困難であったり、不安を持ったりする方が、安心して入浴をして頂きたいと思っている。

身体状況や体格に応じて、それぞれ選択して、安心安全に入浴が出来る入浴装置が必要と考え、本機を選定した。

本機は操作が簡単であり、チェアを利用したまま段差がなくスムーズに浴槽へは入れることが特徴であり、入浴中に異変があった際は、チェアを後ろへ引くことでアラエルから素早く出すことが出来、安全確保が出来る。
同時にスタッフの負担軽減にも期待が寄せられる。

入浴支援は提供するサービスの中でも特に重要とされているが、反面重労働でもあり、介助するスタッフの身体的（腰痛等）・精神的負担（利用者を不安にさせない、ケガをさせない等々）が生じる側面がある。こうした背景を踏まえて、アラエルを使用することで、介護者、被介護者双方への負担軽減と安心・安全のサービス提供を図ることが出来る。

STEP 2 ／ 演習 ／ 回答

アラエル選定の追加理由

洗浄力
ウルトラファインバブルシャワーにより汚れを落とし、肌のうるおいを保つ

保温効果
ウルトラファインバブルの効果により、身体の芯まで温めて、入浴後１０分後においても、貯湯式に比べても２℃ほど高い。

節水効果
貯湯式より少ない湯量で、光熱費の削減にもつながる。使用湯量は８５％カット

等の理由から「アラエル」の導入及び活用を検討している。

STEP 2 ／ （2）事例把握シート作成 ／ 導入候補サービス①

事例把握シート：アラエル（酒井医療株式会社）

商品情報	「アラエル」（酒井医療株式会社）
ターゲット	自身で入浴、洗身が出来ない高齢者や障害のある方など
サービス概要・デジタル技術	①絶妙な位置に配置されたシャワーノズルで、全身くまなく洗える。②介助する方の負担を大幅に軽減。洗えると、快適。③外は小さく、中はゆったりの省スペース設計。（技術）・陰部・臀部専用シャワー・ウルトラファインバブルシャワー・温度管理機能・おまかせモード等
活用により期待される効果（想定されるもの）	・車椅子でのシャワー入浴支援機器である。・ウルトラファインミストシャワーにより毛穴の中の皮脂汚れなどを取り出す。・深部への加温効果がある。・ボディシャンプーとシャワーが一緒に出る「おまかせ洗浄」により、背中から臀部・足先までの完全な洗浄が可能で、介護職員は身体の洗浄が不要。・おしりシャワーにより肛門部の洗浄・温熱の効果がある。・設定した温度のみが出る「温度センサー」を内蔵している。・「殺菌・洗浄」モードにより、本体自体が機器の清掃・殺菌を自動で実施する。
機器を活用した時の課題	価格が高い。設置場所の問題など。
参考URL	https://www.sakaimed.co.jp/bath/sitting-bathing/araeru/

PBL教材（回答編）

企画書・計画書作成

(1) 導入企画書作成 (2) 導入計画書作成

- Step 1
- Step 2
- **Step 3: 企画書・計画書作成**
- Step 4
- Step 5



STEP 3 ／ 演習

企画書（案）を作成してみよう！（１）

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】現状の課題と要因（①課題②要因）	（記載欄）
【2】企画の概要	（記載欄）
【3】企画の詳細（①内容②実施時期③予算）	（記載欄）
【4】期待できる効果	（記載欄）
【5】補足（特に機器の耐久年数）	（記載欄）
【6】その他①企画の担当者及び責任者名②実施体制について（誰が、誰に、いつ）③教育体制について	（記載欄）

STEP 3 ／ 演習 ／ 回答例

企画書（案）を作成してみよう！（１）回答例

企画書の項目【１】～【６】	内容について【１】～【６】
【１】現状の課題と要因（①課題②要因）	現状の課題と要因から、対応策として、デジタル機器の活用を検討する
【２】企画の概要	デジタル機器の導入及び活用により、○○を目標とする。
【３】企画の詳細（①内容②実施時期③予算）	①商品名②いつ購入？③価格は？
【４】期待できる効果（機器を使うことでどの業務がどれくらい軽減できるか）	機器の導入及び活用がもたらす効果
【５】補足（特に機器の耐久年数）	費用対効果を図れるようにする
【６】その他①企画の担当者及び責任者名②実施体制について（誰が、誰に、いつ）③教育体制について	①担当は主任Aさん、責任者は副施設長②Bさん以下、４名が２階フロアの利用者へ③メーカー協力のもと、導入前に３回、以降は、自分たちで月１回程度（６カ月位）

STEP 3 ／ 演習

計画書（案）を作成してみよう！（２）

計画書の項目【１】～【６】	内容について【１】～【６】
【１】導入時期・導入台数・購入日（リースの場合は契約日）	（記載欄）
【２】事業概要及び導入スケジュール	（記載欄）
【３】利用者へのプライバシー配慮	（記載欄）
【４】導入後に達成すべき目標（３カ年）	（記載欄）
【５】期待される効果	（記載欄）
【６】その他①担当者及び責任者名②実施体制について（誰が、誰に、いつ）③教育体制について	（記載欄）

STEP 3 ／ 演習 ／ 回答例

計画書（案）を作成してみよう！（２）回答例

計画書の項目【１】～【６】	内容について【１】～【６】
【１】導入時期・導入台数・購入日（リースの場合は契約日）	【６】について事前協議の上、【１】の内容を決定、補助金や助成金情報も重要となる
【２】事業概要及び導入スケジュール	機器の導入目的を明確にし、導入予定日を策定する
【３】利用者へのプライバシー配慮	導入予定の機器はプライバシーに配慮出来ているか（入浴支援機器であればなおさら）
【４】導入後に達成すべき目標（3カ年）	具体的な目標（数字）を策定する（皮膚疾患や感染症を●%削減するなど）
【５】期待される効果	想定される効果について事例等を元に作成
【６】その他①担当者及び責任者名②実施体制について（誰が、誰に、いつ）③教育体制について	※前頁参照

STEP 3 ／ 演習 ／ まとめ

企画書・計画書作成のまとめ

Step 3では、以下の内容に取り組みました。

企画書の作成
現状の課題と要因を整理し、導入機器の概要、期待できる効果、実施体制を含む企画書（案）を作成しました。

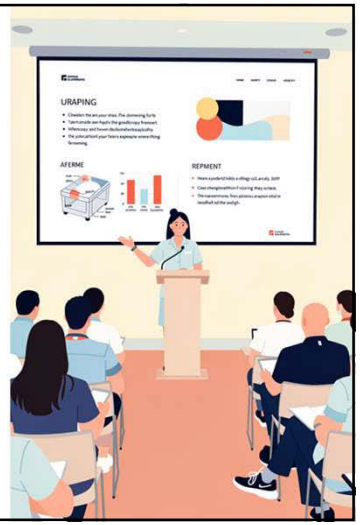
計画書の作成
導入時期・台数、スケジュール、プライバシー配慮、3カ年の達成目標など、具体的な導入計画書（案）を作成しました。

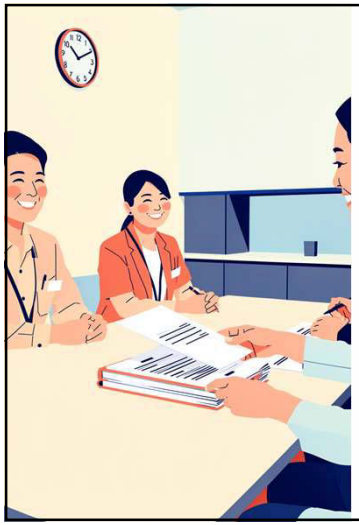
次のステップへ
作成した企画書・計画書をもとに、Step 4ではグループごとに発表を行い、講師・他グループからフィードバックを受けます。

PBL教材（回答編）

発表・講評

- Step 1
- Step 2
- Step 3
- **Step 4: 発表・講評**
- Step 5





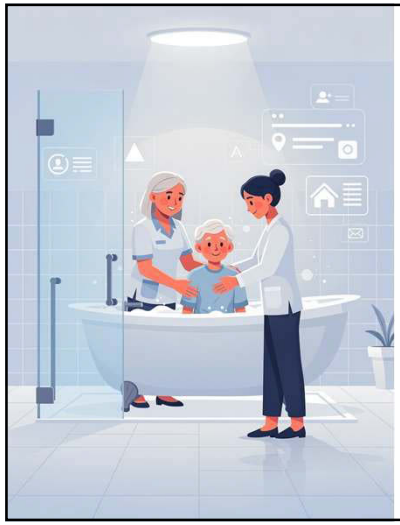
STEP 4 ／ 演習

発表・総評

各グループが作成した企画書をもとに発表を行い、講師・他グループからフィードバックを受けます。

発表のポイント:

- 企画書の内容を簡潔に説明する
- 選定した機器の特徴と選定理由を明確に伝える
- 期待される効果を具体的に示す
- 質疑応答に備える



STEP 4 ／ 演習

発表・総評（評価シート）

発表を聞いた後、以下の観点から評価・フィードバックを行ってください。

評価観点:

- 課題の把握は適切か
- 選定した機器は課題解決に有効か
- 企画書の構成は論理的か
- 導入スケジュールは現実的か
- 期待される効果は具体的か



STEP 4 ／ 演習

発表・総評（まとめ）

各グループの発表内容を踏まえ、講師から総評を行います。

- 各グループの企画書の良い点・改善点を共有
- 他グループの視点から学べること
- 次のStep 5（企画書・計画書再考）に向けた改善ポイント

PBL教材（回答編）

企画書・計画書再考

- Step 1
- Step 2
- Step 3
- Step 4
- **Step 5: 企画書・計画書再考**



STEP 5 ／ 演習

ほかにも企画書（案）を作成してみよう！②

企画書の項目【1】～【8】	内容について【1】～【8】
【1】企画（書）の目的	（記載欄）
【2】対象者	（記載欄）
【3】導入予定の機器の商品概要	（記載欄）
【4】当施設の現状について	（記載欄）
【5】【3】以外の製品情報（比較）	（記載欄）
【6】導入によってもたらされる効果	（記載欄）
【7】導入スケジュール	（記載欄）
【8】その他①企画の担当者及び責任者名②実施体制について（誰が、誰に、いつ） ③教育体制について	（記載欄）

STEP 5 ／ 演習

ほかにも企画書（案）を作成してみよう！③

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】はじめに（①課題と対応②企画の目的）	（記載欄）
【2】導入予定の機器の商品概要	（記載欄）
【3】機器の導入効果（①事例②当施設で想定される効果）	（記載欄）
【4】事例の調査結果（①導入した施設の声②メーカーの見解）	（記載欄）
【5】導入スケジュール	（記載欄）
【6】その他①企画の担当者及び責任者②実施体制について（誰が、誰に、いつ） ③活用の為の教育体制について④管理体制（通常どこに保管するか）	（記載欄）

STEP 5 ／ 演習

ほかにも企画書（案）を作成してみよう！④

企画書の項目【1】～【8】	内容について【1】～【7】
【1】企画した背景（なぜ機器が必要か）	（記載欄）
【2】業界及び当施設を取り巻く環境	（記載欄）
【3】利用者及びご家族、スタッフの声（特にサービス内容への要望、不満など）	（記載欄）
【4】【3】の内容から導かれた見解（ロボットやICTが必要である！？）	（記載欄）
【5】導入を検討している機器の商品概要	（記載欄）
【6】導入によってもたらされる効果	（記載欄）
【7】導入スケジュール	（記載欄）
【8】その他 ①企画の担当者及び責任者 ②実施体制について（誰が、誰に、いつ） ③活用の為の教育体制について④管理体制（通常どこに保管するか）	（記載欄）

STEP 5 ／ 演習 ／ 回答例

ほかにも企画書（案）を作成してみよう！② 回答例

【1】企画（書）の目的	現場における業務改善、効率化
【2】対象者	スタッフ、利用者など
【3】導入予定の機器の商品概要	①商品名②働き③価格のほか、耐久保証年数やアフターフォローについても記載
【4】当施設の現状について	当施設における課題やスタッフの声
【5】【3】以外の製品情報（比較）	他機器との比較をした中で選定と記載
【6】導入によってもたらされる効果（機器を使うことでどの業務がどれくらい軽減できるか）	事例及び提供メーカーへのヒアリング内容（導入前と後との比較想定など）
【7】導入スケジュール	※別紙
【8】その他①企画の担当者及び責任者名②実施体制について（誰が、誰に、いつ） ③教育体制について	①Aさん、管理者Bさん②介護スタッフAさん等、利用者Cさん、入浴時 ③導入前にメーカーによる勉強会（計3回ほど） ④浴室

STEP 5 ／ 演習 ／ 回答例

ほかにも企画書（案）を作成してみよう！③ 回答例

企画書の項目【1】～【6】	内容について【1】～【6】
【1】はじめに（①課題と対応②企画の目的）	①②利用者と介護者の負担軽減
【2】導入予定の機器の商品概要	「アラエル」（酒井医療（株）） 詳細説明
【3】機器の導入効果（①事例②当施設で想定される効果）	①家庭のお風呂のような体験が出来る②スタッフの負担軽減、利用者の安心・安全
【4】事例の調査結果（①導入した施設の声②メーカーの見解）	①https://www.sakaimed.co.jp/case_study/ ②スタッフの職業寿命、利用者の安心・安全
【5】導入スケジュール	自治体の補助金申請に伴い、～5月調査・見積取得6月申請（9月頃交付予定）、10月導入
【6】その他①企画の担当者及び責任者②実施体制について（誰が、誰に、いつ） ③活用の為の教育体制について④管理体制（通常どこに保管するか）	※前頁参照

STEP 5 ／ 演習 ／ 回答例

ほかにも企画書（案）を作成してみよう！④ 回答例

企画書の項目【1】～【8】	内容について【1】～【7】
【1】企画した背景（なぜ機器が必要か）	例）人手不足によるサービス低下の懸念
【2】業界及び当施設を取り巻く環境	例）人手不足（確保及び育成など）
【3】利用者及びご家族、スタッフの声（特にサービス内容への要望、不満など）	例）スタッフは特に心身ともに負担があり、すぐにでも軽減を図る必要がある
【4】【3】の内容から導かれた見解（ロボットやICTが必要である！？）	デジタル機器の活用は手段の1つとしても有効ではないか
【5】導入を検討している機器の商品概要	製品名、働き、効果、価格など
【6】導入によってもたらされる効果（機器を使うことでどの業務がどれくらい軽減できるか）	事例及び提供メーカーへのヒアリング内容（導入前と後との比較想定など）
【7】導入スケジュール	※別紙参照
【8】その他 ①企画の担当者及び責任者 ②実施体制について（誰が、誰に、いつ） ③活用の為の教育体制について ④管理体制（通常どこに保管するか）	※前頁参照

STEP 5 ／ 再考のポイント

企画書・計画書再考のポイント

発表・講評で得たフィードバックをもとに、以下の観点から企画書・計画書をブラッシュアップしましょう。

1. 課題設定の妥当性

フィードバックを踏まえ、課題の設定が適切であったか再検討する。

2. 解決策の具体性

選定した機器の導入効果をより具体的に記載する。数値目標を明確にする。

3. 実施体制の充実

担当者・責任者の役割分担、教育体制、スケジュールをより詳細に記載する。

4. 費用対効果の明確化

導入コストと期待される効果を比較し、費用対効果を明示する。

まとめ

全体の振り返り

本研修プログラム（PBL教材① STEP1）を通じて学んだことを振り返ります。

Step 1: 事例把握
福祉現場の課題を直視し、入浴支援における課題を抽出した。

Step 2: 事例調査
導入候補サービス（アラエル・ヌクティ・ピュアット）を調査し、「アラエル」を選定した。

Step 3: 企画書・計画書作成
課題解決に向けた企画書・計画書を作成し、導入の具体的なプランを策定した。

Step 4: 発表・講評
各グループの企画書を発表し、フィードバックを受けた。

Step 5: 企画書・計画書再考
フィードバックを踏まえ、より実現可能な企画書へとブラッシュアップした。



まとめ

今後に向けて

本研修で学んだ内容を、実際の現場で活かしていくために：

現場への展開
研修で作成した企画書をもとに、実際の施設での導入検討を進める。管理者として、スタッフへの説明と合意形成を図る。

継続的な学習
AI・ICT機器は日々進化している。最新の情報を収集し、施設に最適な機器を常に検討する姿勢が重要。

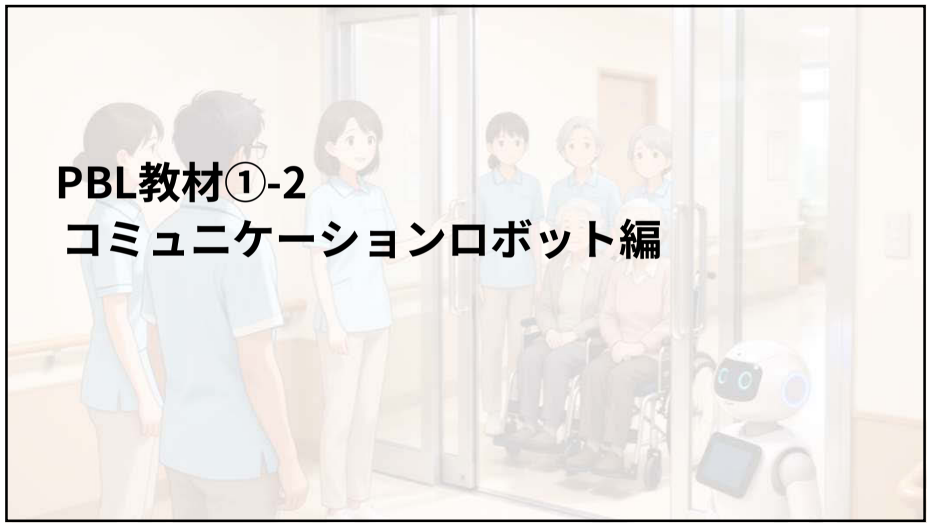
多国籍共生の視点
多国籍スタッフとの協働において、機器導入は言語の壁を超えたサービス品質の均一化にも貢献する。

介護現場で使用するAI先端機器

PBL教材① STEP1 — 完了

多国籍共生介護現場のマネージャーを対象としたAI導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

お疲れ様でした。本教材で学んだ内容を現場で活かし、利用者とスタッフ双方にとってより良い環境づくりを目指しましょう。



PBL教材①-2
コミュニケーションロボット編

全体の流れ

PBL教材（回答編）— 5つのステップ

介護現場で使用するAI先端機器の導入スキル獲得のための研修プログラム。事例把握から企画書再考まで、実践的に学ぶためのテキストです。

STEP 1
事例把握
- 状況説明
- 事例把握シート作成

STEP 2
事例調査
- 状況説明
- 事例調査シート作成

STEP 3
企画書・計画書作成
- 導入企画書作成
- 導入企画書改訂

STEP 4
発表・講評

STEP 5
企画書・計画書再考



STEP 1 ／ 事例把握

事例把握

（1）状況説明　（2）事例把握シート作成

01
作業手順の設計
課題解決の為の作業や手法について検討する。

02
目的・背景の設定
その目的と背景についても理解する。

03
現在の状況設定
設定された状況から課題を抽出する。

04
現在抱えている課題の抽出
事例から福祉現場における課題を直視する。

05
事例把握シート作成
課題解決の為のツールとしてAI機器を検討しており、導入及び活用事例について把握する。

STEP 1 ／ （1）状況説明 ／ 事例把握

作業手順

舞台、状況を踏まえた上で、施設の課題について、グループワークを通じて、以下について進める。

プロセス	内容
課題の設定	現在起きている現象（特に良くない）及び将来にわたり起こりうるもの
原因分析	何が原因で課題が発生しているのか、現状と理想（あるべき姿）のギャップを分析する。
解決策の検討	考えられる解決策を具体的に列挙し、優先順位をつける。
解決策の実行	優先順位が高いものから実行し、効果検証をして効果があれば継続、なければ他の解決策を模索する。

1 Do
2 How
3 Why
4 Where
5 What

STEP 1 ／ （1）状況説明 ／ 事例把握

目的・背景の設定

背景

昨今の福祉現場においては、少子高齢化社会、就業人口減少といった状況の影響を強く受け、サービスを提供するスタッフに限りがあるばかりでなく、今後はスタッフそのものの高齢化などの問題も予見される。
現場にて従事するスタッフへの負担軽減、利用者への質の高いサービスの維持・向上を図るうえで、ロボットやICTといったデジタル機器の導入・活用が求められる。
一方で、受け入れ側においても、抵抗なく、無理なく、無駄なく導入や活用が出来るかといった点が課題となっており、事業所、施設、法人全体で取り組む問題として捉える必要がある。
今回は、施設における様々な先端機器によるスタッフの負担軽減と利用者の満足度を向上させるために「業務支援ツール」「コミュニケーションロボット」「介護ロボット（移乗・排泄・入浴など）」「見守り支援（センサー・カメラなど）」の導入・活用を検討している。

目的

- 福祉現場にて従事するスタッフの負担軽減
- 利用者への質の高いサービスの維持・向上を図る。

STEP 1 ／ 事例把握 ／ 目的・背景の設定 ／ （1）状況説明

目的・背景の設定

グループで情報共有と理解をはかるため、スタッフ個人が抱えている課題を抽出し、話し合い納得して介護ロボットを活用する環境を生み出す方策を探るにはどうしたら良いか。

職員の現状を把握して、状況把握シートを作成し、管理者がまとめて提案書を作成する

原因	**背景**
目的	**あるべき姿**

STEP 1 ／ 状況設定 ／ 事例把握 ／ （1）状況説明

状況設定

舞台

正職員45名、準職員45名の法人（千葉県）
特別養護老人ホーム（定員50名）、デイサービス（定員32名）、ショートステイ（定員20名）、ケアハウス（定員62名）、居宅介護支援事業所等を運営

背景

利用者へ提供するサービスの質を上げるべく、全スタッフでアイデアを出し合い、懸命に取り組んでいるものの、スタッフからレクリエーションのテーマについて限界があるとの相談が相次いでいる。利用者の満足度向上の為、レクリエーションに興味を示さない利用者に対しても「コミュニケーションロボット」を活用したいと考えている。

目的

スタッフが日々創意工夫をし、レクリエーションのテーマを設定し、実施。楽しみにしている利用者も多いが、全く興味を示さない利用者も居て、反応も極めて薄い為、レクリエーションを担当することに不安を持っているスタッフもいる。管理者としては、コミュニケーションロボットを活用しつつ、出来る限り多くの利用者が楽しみに思って通ってほしいと考えている。また、レクリエーション担当者自身も楽しんで参加してもらいたい。

この状況設定による演習へ



STEP 1 ／ 状況設定 ／ 事例把握 ／ （1）状況説明

レクリエーションとは？

管理者のあなたは、レクリエーションに活用できるデジタル機器の導入を検討している。
状況(2)

これまで施設ではロボットを導入したことがない為、まずは導入を検討する機器の調査（実際に活用をしている事例をインターネット等で調べてグループディスカッションを行う）を予定している。

【出典】TOKYOMXNHKニュース、朝日新聞デジタルほか

介護施設において、レクリエーションは利用者同士や職員との関係性を円滑にし、生活の質（QOL）を向上させる重要な活動である。

STEP 1／事例把握／状況設定（1日の流れ）／（1）状況説明

状況設定（1日の流れ）

時間帯（目安）	スケジュール（予定）
7:00	起床（モーニングケア）
8:00	朝食
9:00	集団体操、健康チェック
10:00	入浴
12:00	昼食
14:00	レクリエーション①～⑤参照、入浴
15:00	おやつ
18:00	夕食
21:00	就寝（ナイトケア）

- **①身体を使うレクリエーション**
- **②頭を使うレクリエーション**
- **③音楽を取り入れたレクリエーション**
- **④創作レクリエーション**
- **⑤地域交流レクリエーション**

STEP 1／課題抽出／事例把握／（1）状況説明

福祉現場における課題と解決に向けて

1. 計画を実行する（レクリエーションの活性化・充実やスタッフの負担軽減など）

2. 結果を振り返り、事業所へフィードバックする

1	2	3
現状	**ギャップ**	**あるべき姿**
介護のレクリエーションにおいてネタ決めの苦労やレクリエーションが苦手な方がいる・・・		介護のレクリエーションにおいてスタッフ、利用者とも楽しく参加している・・・

STEP 1／課題抽出／事例把握／（1）状況説明

課題抽出

レクリエーションは、スタッフや利用者双方において介護の質向上に繋がるため、サービスの１つが売りになるとも考えられる。

あるべき姿

利用者の満足度を向上させる

レクリエーションを充実させる

レクリエーションの負担を軽減する

コミュニケーションロボット導入・活用

STEP 1／目的・背景／事例把握／（2）事例把握シート作成

事例把握シート作成

- 今回取り上げられた"施設"の「課題」は何か？ ⇒ レクリエーションの場面？
- 課題解決に向けてどういった対応や取り組みが考えられるか。⇒ 新たな取り組み？
- この場面において必要と思われるAI機器はどういったものがあるか。選定したAIを導入（及び活用）する際、どういったプロセスが必要か。⇒ 使用方法の理解や使用する人の選定？

以下の①②③（STEP１～４）については振り返りの時期を設定する。

1. 目標設定（AI機器を導入するにあたってどういったことを成し遂げるか）
2. 情報収集（導入予定のAIの活用事例等をリサーチ）
3. 導入計画（いつ購入・導入、機器使用のプラクティススケジュール、AI機器を活用するのは誰？等の計画策定）
4. ※導入
5. ※運用
6. ※導入したAI機器について、スタッフ間の共有や結果報告を行う（いつ頃？）

（※については次の段階において議論を予定）



STEP 1 ／ 事例把握 ／ 導入候補サービス① ／ （2）事例把握シート作成

導入候補サービス①：PALRO（パルロ）

「PALRO（パルロ）」：富士ソフト株式会社

PALRO（パルロ）は、「PALROパルロ」は会話とコミュニケーション力が特徴の介護コミュニケーションロボット（介護予防支援ロボット）として、介護サービスを提供する様々な場面で活用ができる。

利用者とのコミュニケーションの他にも歌、ダンス、体操、ゲームと多種多様な機能が満載されており、介護コミュニケーションロボットの最先端で職員様の一員として今、介護の現場で活躍の幅を増やしている。

商品情報

富士ソフト株式会社が開発したヒューマノイド型のコミュニケーションロボット。高度なAIを搭載し、自然な会話・顔認識・個別対応が可能。

ターゲット

主なターゲットは高齢者福祉施設・介護現場での利用者、および離れて暮らす高齢者とその家族。多様な施設規模・形態に対応。

サービス概要・デジタル技術

高度なAIを搭載し、顔認識や自然な会話が可能。個々の利用者の顔と名前を覚え、その人に合わせた会話・レクリエーションを提供。専用アプリ「PALROしゃべリンク」を通じた家族コミュニケーション・見守り機能も搭載。

活用により期待される効果

- 高齢者の認知機能の維持・向上
- レクリエーション活動の活性化・多様化
- 職員の業務負担軽減と時間創出



機器を活用した時の課題

初期導入コストが高め。定期的なメンテナンスやソフトウェアアップデートの必要性がある。スタッフへの操作研修も必要。

参考URL

https://palro.jp/

STEP 1 ／ 事例把握 ／ 導入候補サービス② ／ （2）事例把握シート作成

導入候補サービス②：LOVOT（らぼっと）

「LOVOT（らぼっと）」：GROOVE X 株式会社



カメラ、サーモグラフィー、マイク、障害物検知、明るさセンサーなど多種のセンサーを搭載しており、センサーがとらえた刺激を機械学習で処理し、リアルタイムでさまざまな動きがある。特に目はディスプレイになっていて、表現力も凄い。

LOVOTはペットのようにだんだんと家族になるロボットであり、名前を呼ぶと近づいてきて見つめてくる。好きな人になついて抱っこをねだる。抱き上げるとほんのりと温かい。ロボットではあるが、まるで生き物のような生命感があるのが特徴である。

センサー技術

カメラ、サーモグラフィー、マイク、障害物検知、明るさセンサーなど多種のセンサーを搭載。

機械学習

センサーがとらえた刺激をリアルタイムで処理し、さまざまな動きを実現。

コミュニケーション

名前を呼ぶと近づき、好きな人になつき、抱っこをねだる。

特徴

まるで生き物のような生命感。抱き上げるとほんのりと温かい。

STEP 1 ／ 事例把握 ／ 導入候補サービス③ ／ （2）事例把握シート作成

導入候補サービス③：PARO（パロ）

「PARO（パロ）」：株式会社知能システムほか



メンタルコミットロボット「パロ」は、本物の動物を飼うことが困難な場所や人々のために、セラピーを目的に開発された。

デイサービスセンター、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、小児病棟、児童養護施設などで、数多く、長期間に渡る実験を続けることにより、アニマル・セラピーと同じ効果を得られることを確認されており、人に楽しみや安らぎなどの精神的な働きかけを行うことを目的にした、メンタルコミットロボットである。

開発目的

本物の動物を飼うことが困難な場所や人々のためのセラピー用ロボット

実証実績

デイサービスセンター、介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、小児病棟、児童養護施設等で長期間実験

効果

アニマル・セラピーと同じ効果を確認。人に楽しみや安らぎなどの精神的な働きかけを行う

分類

メンタルコミットロボット

STEP 1 ／ 演習

STEP 1 演習

それでは、事例把握について演習をしてみましょう。

01

課題抽出（個人）15分

（1）現場での課題抽出 ― 職員から聞き取りした施設内の課題について重要な内容を集約して記載してください。

02

課題共有（管理者：グループ）20分

（2）課題の共有 ― 集約した施設内の課題についてグルーピングをして記載してください。

03

課題の共有（優先課題選択）

集約した施設内の課題について優先付けをして採点してください。

04

課題の選択

職員から聞き取りした施設内の課題について特に重要な内容について3つまで記載をしてください。

05

課題解決（グループ）20分

（3-2）課題の解決案（資料・WEB参照：IT先端機器活用）―3つの課題についてそれぞれ解決案を記載してください。

STEP 1 ／ テスト

単元テスト（Yes / No）

Yes, Noで答える単元テスト6問

問題	Yes	No
①現在、日本では少子高齢化社会と言われており、高齢者を支える介護職が足りていないと言われている。		
②介護職が辞めた理由として上位の理由としては、「人間関係」が挙げられる。		
③今後、日本においては介護人材がますます足りなくなる。		
④介護現場における働き手が足りなくなることが想定された場合、ツールの１つとして、ロボットやICTといったデジタル機器の活用は有効である？		
⑤介護現場における課題については、一人で抱え込まず、管理者やスタッフと共有して、解決することが望ましい。		
⑥課題解決に向けては、現状を把握して、「あるべき姿」や「目指すべき姿」を想定して取り組む必要があり、やみくもに自身の意思を推し進めることは望ましいことではない。		

①統計的に見ると足りていない。さらに今後もこの傾向は続くと思われる。→Yes
②統計的な退職理由としては、「人間関係」が上位。他には所属している法人や事業所の理念や方針についていけないなどが挙げられる。→ Yes
③少子高齢化社会が進み、働き手の数にも限りが出てくる。その為に、介護の担い手が足りなくなることが想定される。→ Yes
④人材不足が心配され、これまで通りのサービスを提供できなくなる可能性がある。解決策の１つとして、DX化が考えられるが、ロボットやICTの活用は有効なツールと言える。→ Yes
⑤現場における課題は、施設や事業所の利用者へ直結することでもあり、出来る限り共有して、解決策を検討しなくてはいけない。→ Yes
⑥課題解決は一人は難しいこともあり、周囲のスタッフや管理者と相談し、進めていくことが望ましい。ノウハウを蓄積することで今後も同様の課題があった際、対応に役立つ。→ Yes



STEP 2 ／ 事例調査

事例調査

（1）状況説明　（2）事例調査シート作成

STEP 1	**STEP 2** **事例調査 ― (1) 状況説明** **(2) 事例調査シート作成**
STEP 3	**STEP 4**
STEP 5	

進め方:

- 導入候補サービス①～③までの機器について、インターネットで調べる。
- グループディスカッションして機器の活用事例を調べる。
- 施設における課題（例：レクリエーションのときにネタがない、スタッフへ負担が掛かっている等々）について、解決に役立つ機器はどれか？という観点から候補について調べる。

STEP 2 ／ 演習

STEP 2 演習

課題の選定

1. 先ほどの3つの課題から、導入可能なサービス1つを選定してください。
2. 選定理由を記載してください。

回答

【課題】
【選定したサービス】
【解決策】
【選定理由】

写真や関連情報URLを貼るなどして、できるだけ情報を記載する。※複数ページになることも可





STEP 3 ／ 企画書・計画書作成

企画書・計画書作成

（1）導入企画書作成　（2）導入企画書改訂

STEP 1	**STEP 2**
STEP 3: 企画書・計画書作成 （1）導入企画書作成 （2）導入企画書改訂	**STEP 4**
STEP 5	

演習

1. 施設の課題、解決策より企画書を作成してください。
2. 作成した企画書を生成AIを活用して改訂してください。

【課題】
【選定したサービス】
【解決策】
【選定理由】

※生成AI（ChatGPTなど）を活用して情報を追加しましょう。※複数ページになることも可

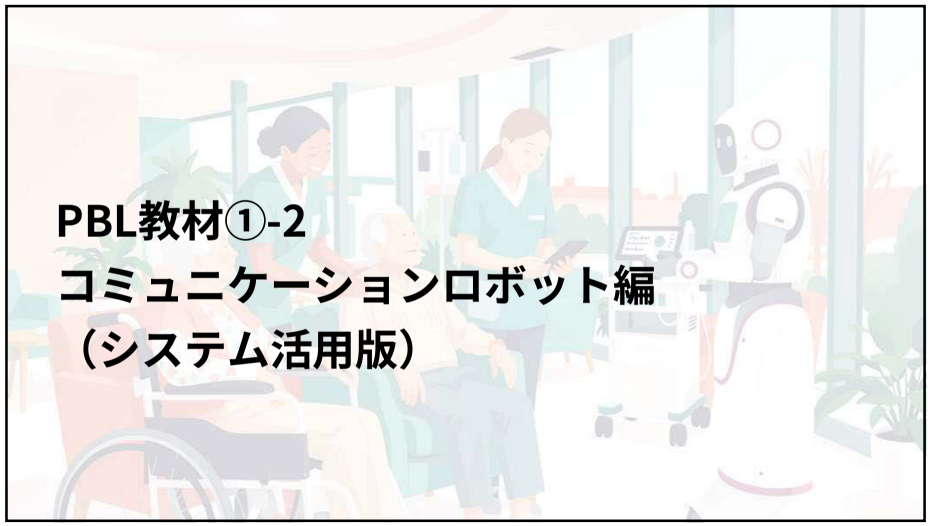
STEP 4 ／ 発表・講評

発表・講評

STEP 1	STEP 2	STEP 3
STEP 4: 発表・講評	STEP 5	

STEP 5：企画書・計画書再考

STEP 1	STEP 2	STEP 3
STEP 4	STEP 5: 企画書・計画書再考	



PBL教材①-2
コミュニケーションロボット編
（システム活用版）

全体の流れ

PBL教材（システム活用編）―5つのステップ

多国籍共生介護現場におけるAI機器導入スキル獲得のための研修プログラム。介護・リハビリ現場の管理者・教育担当者が、課題抽出から企画書作成まで実践的に学ぶためのテキストです。

Step 1 課題抽出	**Step 2** 事例調査
Step 3 企画書作成	**Step 4** 発表・講評
Step 5 企画書再考	



STEP 1 ／ 演習 ／ Aグループ

課題抽出（個人）― 15分

（1）現場での課題：考えられる施設内の課題を記載してください

介護分野の課題

- 職員が少なく、人員不足が慢性的な問題となっている
- レクリエーションの内容を毎日考えることが負担になっている
- 移動・移乗の際に「痛い」と訴える利用者への対応が難しい
- 清掃の進捗管理（どこまで完了しているか）が不明確
- 外国籍職員・利用者とのコミュニケーションに困難がある
- 記録業務の簡略化が求められているが手段がない

リハビリ分野の課題

- 実働と事務作業（書類）の割合が偏っており、現場対応が減っている
- 書類業務の簡略化が困難で時間を多く消耗している
- 個別の目標設定が明確にできていない
- リハビリ回数が不足しており、介護士との連携強化が必要
- 入居者のスケジュール管理が難しく、調整に手間がかかる

STEP 1 ／ 演習 ／ Bグループ

課題抽出（個人）― 15分

（1）現場での課題：考えられる施設内の課題を記載してください

人員・シフト管理
当日欠勤が多い職員がおり、毎回決まった代役しか立てられず、柔軟な対応ができていない。

レクリエーション
毎日のレクリエーションのネタが被ってくる。利用者の能力に合わせた個別対応のレクリエーションが難しい。

コミュニケーション
外国人とのコミュニケーションに困ることが多い。一人一人の利用者との対話時間を確保することが難しい。

記録・家族対応
じっくり記録を取る時間が確保できない。家族が利用者の現状とのギャップを理解してくれないケースがある。



STEP 1 ／ 演習 ／ Cグループ

課題抽出（個人）— 15分

（1）現場での課題：考えられる施設内の課題を記載してください

レクリエーション負担
毎日のレクリエーション内容を考えることが大変で、マンネリ化も進んでいる。

不穏対応
不穏対応に時間が取られ、他の業務に支障が出ている。迅速かつ的確な対応手順の整備が必要。

排泄リズムの把握
排泄のリズムの把握と適切な対応に課題がある。個別の生活リズムに合わせたケアが求められる。

外国人への指導
外国人職員への業務指導が大変で、言語・文化の壁が指導の質に影響している。

STEP 1 ／ 演習 ／ 課題共有

課題共有（グループ）— 20分

（2）課題の共有：ChatGPTを活用して課題を整理・集約する

介護関連の課題

- **人員不足：**職員が少なく、慢性的な人員不足が続いている
- **業務負担：**レクリエーション企画・実施の負担が大きい
- **痛みの対応：**移動・移乗時の疼痛訴えへの対応が困難
- **清掃管理：**清掃進捗の可視化ができていない
- **記録業務：**記録の簡略化が必要で時間確保も困難
- **コミュニケーション：**外国籍利用者との意思疎通に課題

リハビリ・その他の課題

- **業務割合：**実働と書類作業の比率に偏りがある
- **目標設定：**個別目標が明確に設定できていない
- **リハビリ回数：**介護士との連携不足でリハビリ機会が減少
- **不穏対応：**不穏行動への対応が他業務を圧迫
- **家族とのギャップ：**家族が利用者の現状を正確に理解していない
- **当日欠勤：**柔軟なシフト対応ができない

ChatGPTなどのAIツールを活用することで、多様な意見を素早く分類・整理することができます。多国籍チームの課題を漏れなく把握するために積極的に活用しましょう。

STEP 1 ／ 演習 ／ 課題の選択

課題の選択と優先順位づけ

（3）課題の選択：整理した課題を採点し、重要な課題を4つまで選定してください

分類	課題内容	点数
介護の課題	業務負担：レクリエーションの内容を考えるのが大変、毎日のレクリエーションが大変	30点
その他の課題	指導の難しさ：外国人への指導が大変	25点
コミュニケーション	利用者との対話時間確保が難しい／不穏対応が他業務を圧迫	22点
介護の課題	清掃管理：清掃の流れ（どこまで完了しているか）が不明	21点
リハビリの課題	リハビリ回数が不足しており、介護士との連携が必要	15点

課題①（30点）
業務負担：レクリエーションの内容を毎日考えることが大変

課題②（25点）
指導の難しさ：外国人職員・利用者への指導・コミュニケーション

課題③（22点）
コミュニケーション：利用者との対話時間確保・不穏対応

課題④（21点）
清掃管理：清掃の進捗状況が把握できていない



STEP 1 ／ 演習 ／ 選定結果

優先課題の確定（上位4つ）

職員から聞き取りした施設内の課題について、特に重要な内容を4つ記載してください

1 **介護の課題 ／ 業務負担**
レクリエーションの内容を考えることが大変で、毎日同じような活動が繰り返されマンネリ化している。職員の時間・労力を大きく消耗している。

2 **その他の課題 ／ 外国人指導**
外国人職員・利用者への指導が困難で、言語・文化の違いが現場の連携に影響を及ぼしている。多国籍共生現場ならではの重要課題。

3 **コミュニケーション ／ 対話・不穏対応**
一人ひとりの利用者との対話時間を確保することが難しく、不穏対応に追われることで他業務にも支障が出ている。

4 **介護の課題 ／ 清掃管理**
清掃の流れ（どこまで完了しているか）が不明確で、業務の抜け漏れや二重作業が発生しやすい状況になっている。

STEP 2 ／ 自主学習型グループワーク

事例調査

Step 1で選定した課題に対して、IT・AI先端機器を活用した解決事例を調査し、導入の可能性を検討します。資料やWebを参照しながら事例把握シートを作成しましょう。

01

事例把握シート作成

各課題に対して、導入候補となるサービス・機器を調査し、商品情報・ターゲット・デジタル技術・期待効果・課題・参考URLの6項目を整理します。

02

解決案の検討

資料・Web検索（IT先端機器活用）を参照しながら、4つの課題それぞれについて解決案と検討機器を話し合い、簡潔に記載します。

03

事例の選定

調査した解決策・導入サービスの中から1つを選定し、選定理由を具体的に記載します。チームの合意を形成します。

多国籍共生介護現場では、AIや多言語対応ロボット、IoT機器など先端技術の活用が特に効果的です。多様なスタッフが連携しやすくなるツールを積極的に調査しましょう。

STEP 2 ／ 課題解決 ／ グループ

事例調査：課題の解決案を検討する

（2）事例把握シート作成 ／ （3）課題の解決案（資料・Web参照：IT先端機器活用）

4つの課題についてそれぞれ解決案（検討機器を含む）を話し合い、簡潔に記載してください。

課題①：業務負担（レクリエーション）

解決策：**パルロ**を用いて体操やダンスなどのレクリエーションを取り入れる。AIが利用者の顔・名前を覚えて個別対応し、職員の準備負担を大幅に軽減できる。

課題②：清掃管理の不明確さ

解決策：IoTセンサーやタブレットを活用した**清掃進捗管理システム**を導入。リアルタイムで清掃状況を可視化し、作業の抜け漏れを防ぐ。

課題③：コミュニケーション・不穏対応

解決策：**見守りセンサー・AIカメラ**を活用し、不穏の兆候を早期検知。職員への通知システムで迅速な対応を可能にする。

課題④：外国人への指導

解決策：**多言語翻訳AIツール・音声翻訳デバイス**を活用し、外国籍職員・利用者とのコミュニケーションと業務指導を円滑化する。

STEP 2 ／ 事例の選定

解決策・導入サービスの選定

1. この施設の課題から解決策と導入サービスを1つ選定してください　2. 選定した理由を記載してください

✅ 選定：課題①

介護の課題 ／ 業務負担

レクリエーションの内容を考えるのが大変、毎日のレクリエーションが大変。

→ 導入機器：**パルロ（PALRO）**

選定理由

介護現場において、職員の負担を軽減し、利用者である高齢者が楽しめるレクリエーションの実施が求められていますが、日々の内容考案や実行にかかる時間・労力が課題となっています。
パルロは顔認識・自然な会話・クイズ・ゲームを通じて高齢者とのコミュニケーションを円滑に行うことができ、レクリエーション支援に最適です。また、利用者ごとに顔と名前を覚え、その人に合わせた内容で話しかけたり、反応を学習したりする機能を持つため、個別ケアにも対応できます。

- **課題②**　介護の課題：清掃管理の流れが不明確
- **課題③**　コミュニケーション：利用者との対話時間確保・不穏対応
- **課題④**　その他：外国人への指導の難しさ

STEP 2 ／ 事例調査 ／ グループ

事例把握シートの作成

（2）事例把握シート作成：選定した課題について関連資料・Web検索をして事例把握シートを作成してください

課題①の解決策（機器選定）

介護の課題 ／ 業務負担レクリエーションの内容を考えるのが大変、毎日のレクリエーションが大変。

→ パルロを用いて体操やダンスなどのレクリエーションを取り入れる。

導入候補サービス①：パルロ（PALRO）

富士ソフト株式会社が開発したヒューマノイド型コミュニケーションロボット。高齢者福祉施設や介護現場での活用実績が多数あります。
次のページで詳細な事例把握シートを確認してください。



STEP 2 ／ 事例把握シート ／ 導入候補サービス①

事例把握シート：パルロ（PALRO）

商品情報

富士ソフト株式会社が開発したヒューマノイド型のコミュニケーションロボット。高度なAIを搭載し、自然な会話・顔認識・個別対応が可能。

ターゲット

主なターゲットは高齢者福祉施設・介護現場での利用者、および離れて暮らす高齢者とその家族。多様な施設規模・形態に対応。

サービス概要・デジタル技術

高度なAIを搭載し、顔認識や自然な会話が可能。個々の利用者の顔と名前を覚え、その人に合わせた会話・レクリエーションを提供。専用アプリ「PALROしゃべリンク」を通じた家族コミュニケーション・見守り機能も搭載。

活用により期待される効果

- 高齢者の認知機能の維持・向上
- レクリエーション活動の活性化・多様化
- 職員の業務負担軽減と時間創出

機器を活用した時の課題

初期導入コストが高め。定期的なメンテナンスやソフトウェアアップデートの必要性がある。スタッフへの操作研修も必要。

参考URL

https://palro.jp/

STEP 2 ／ 事例把握シート ／ 画像資料

事例把握シート：関連画像の収集

導入候補サービスに関連する画像をアップロードし、視覚的な情報としてシートに添付してください（最大10枚）

実際のロボット活用シーン、施設での導入事例写真、製品カタログ画像などを収集・整理することで、チーム内での理解共有がスムーズになります。

製品・機器の外観写真

メーカー公式サイトや製品カタログから、ロボット・機器の外観・サイズ感がわかる画像を収集しましょう。

利用シーン・導入事例写真

実際に施設で活用されているシーン写真や、導入事例のレポート画像を集めることで具体的なイメージを共有できます。

効果データ・グラフ資料

導入後の効果を示すデータグラフや比較表なども画像として収集し、企画書作成時の根拠資料として活用しましょう。

画像は最大10枚までアップロード可能です。収集した画像は次のStep（企画書作成）でも活用します。取消・差し替えも随時行えます。

STEP 3 ／ 自主学習型グループワーク

企画書・計画書作成

Step 2で調査・選定した解決策をもとに、実際に施設で導入するための企画書と計画書を作成します。実務に直結する重要なアウトプットです。

01

企画書に必要な項目の抽出

現状の課題と要因、企画の概要・詳細、期待効果、コスト・スケジュールなど、企画書に必要な項目を整理します（項目①〜⑩）。

02

各項目内容を充実させる

抽出した項目の内容をボリュームアップし、具体的なデータや根拠を加えて説得力のある企画書を仕上げます。

03

デザインの選択と企画書作成

Googleドライブのテンプレートからデザインを選択し、これまでに準備した項目・内容をGoogleスライドに貼り付けて完成させます。

04

導入計画書の作成

企画書と合わせて、具体的な導入スケジュール・担当者・コスト計画を盛り込んだ計画書を作成します。

STEP 3 ／ 演習（1）

企画書（案）を作成してみよう！（1）

企画書に必要と思われる項目の抽出（各項目50文字程度で記載）

1

現状の課題と要因

現場での具体的な問題点：現在発生している問題や、不便・不満を感じている点を具体的に記載する。

2

企画の概要

背景：なぜこの企画が必要なのか、現状の課題や市場のニーズについて触れる。介護施設での職員負担増加・レクリエーションのマンネリ化などの背景を簡潔に説明。

3

企画の詳細

プロジェクトの具体的なアクション：企画で実施する内容や方法について詳細に説明。「介護施設にコミュニケーションロボット『パルロ』を導入し、毎日のレクリエーションやコミュニケーション支援を行う」など。

4

期待される効果・評価指標

導入後に期待される成果（職員負担軽減・利用者満足度向上など）と、効果を測定するための具体的なKPIを設定する。

項目①〜⑩は固定です。各項目の中身をStep 3（2）でさらにボリュームアップしていきます。

STEP 3 ／ 演習（2）

企画書（案）を作成してみよう！（2）

企画書の各項目内容を充実させる：項目①「現状の課題と要因」の記載例

項目①　現状の課題と要因

①-1　職員の業務負担が過剰

- 介護施設の職員は日々多くの業務をこなさなければならず、レクリエーションの企画・準備に十分な時間を割けていない
- 人手不足が深刻な現場では、職員一人ひとりの負担が増大し、入居者とのコミュニケーション時間確保が困難な状況

①-2　レクリエーション内容のマンネリ化

- 限られたレクリエーション内容が繰り返されるため、入居者の興味を引きにくくなっている
- 認知症利用者には認知機能を刺激するような活動が求められるが、工夫するためのリソース・時間が不足している

①-3　利用者の孤立感・寂しさ

- 職員と十分に交流できないことで孤独感が生まれ、精神的健康に悪影響を及ぼす恐れがある
- 一部の入居者は、他の入居者や職員との交流が少なく施設内で孤立しがちである



STEP 3 ／ 演習（3）

企画書を作成してみよう！

企画書のデザイン選択：Googleドライブからテンプレートを選んでください

下記のGoogleドライブフォルダにアクセスし、企画書テンプレートの中から施設のイメージに合ったデザインを1つ選択してください。テンプレートは複数種類用意されており、介護・福祉現場に適したデザインが揃っています。

Googleドライブ共有フォルダ：
https://drive.google.com/drive/folders/1dlZm2bxSUqNTrztxqCnm4uOj9p4kEQw0アクセス後、フォルダ内のテンプレートをコピーして使用してください。

STEP 3 ／ 演習（4）

企画書を作成してみよう！

選択したデザインの企画書を作成：これまでに準備した項目・内容をGoogleスライドに貼り付けてください

→ **Step 1：テンプレートをコピー**

選択したGoogleスライドのテンプレートをマイドライブにコピーし、編集できる状態にします。

→ **Step 2：項目・内容を貼り付け**

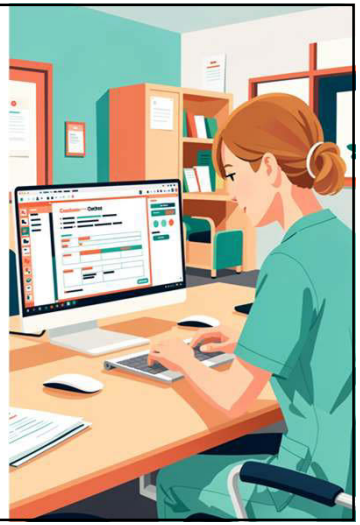
Step 3（1）（2）で準備した企画書の項目と内容テキストをスライドの該当箇所に貼り付けます。

→ **Step 3：画像・データを挿入**

Step 2で収集した事例把握シートの画像や効果データも適宜挿入し、視覚的に説得力のある企画書に仕上げます。

→ **Step 4：最終確認・完成**

全体の流れと内容を確認し、発表に向けた最終調整を行います。チームで見直しを行いましょう。





STEP 4

発表・講評

各グループが作成した企画書をもとに発表を行い、講師・他グループからフィードバックを受けます。多角的な視点からの意見を取り入れ、企画の精度をさらに高めましょう。

発表の準備

各グループ代表者が企画書の内容・選定理由・期待効果をわかりやすく説明できるよう準備します。

他グループへの質問

他グループの発表を聞き、課題の捉え方や解決策について建設的な質問・意見を伝え合います。

講師講評

講師より各グループの企画書に対してフィードバックが行われます。改善点や優れた視点を共有します。

STEP 5

企画書・計画書の再考

発表・講評で得たフィードバックをもとに、企画書・計画書をブラッシュアップします。他者の視点を取り入れることで、より実現可能で説得力のある内容へと仕上げましょう。

フィードバックの整理

発表・講評で受けたコメントや指摘事項を整理し、修正が必要な箇所を明確にします。

内容の修正・充実化

指摘を踏まえ、課題の捉え直しや解決策の具体化、コスト試算の精緻化などを行い内容をさらに深めます。

最終版の完成

修正・充実化した企画書・計画書を最終版としてまとめ、実際の現場導入提案として活用できる資料に仕上げます。

このPBL研修を通じて得られた学びと成果物は、多国籍共生介護現場でのAI機器導入推進に直接活用できます。現場の課題解決に向けて、ぜひ積極的に活用してください。

本報告書は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として≪学校法人彩寿学園≫が実施した令和 6 年度「専門職業人材の最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業」の成果をとりまとめたものです。

令和 7 年度
専門職業人材の最新技能アップデートのための
専修学校リカレント教育（リ・スキリング）推進事業

事業成果報告書多国籍共生介護現場のマネージャーを対象とした AI 導入スキル獲得のための研修プログラム開発事業

令和 8 年 3 月
学校法人彩寿学園